

キムラグモ

学名	Heptathela kimurai		
目名	ハラフシグモ亜目		
目名学名	Mesothelae		
科名	ハラフシグモ科		
科名学名	Liphistiidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：II (VU)	



【選定理由】

大分県のキムラグモは、1998年小野展嗣博士によってブンゴキムラグモと分類されたが、その後の調査により従来呼称とされていたキムラグモも生息していることが確認されたので種として記載する。

県内分布	県南広域地域個体群
分布域	大分県南部・熊本県北東部・宮崎県北部・福岡県南東部
世界的分布	
生息環境	森林の林床斜面などで地表面に穿孔
現状	佐伯市・南海部郡・三重町・緒方町・朝地町・竹田市・久住町・荻町の標高900m以下の森林斜面の地表面に穿孔して母系家族の群れを作る。
備考	Heptathela kimuraiが生息していることが確認されたので追加

ブンゴキムラグモ

学名	Heptathela kikuyai		
目名	ハラフシグモ亜目		
目名学名	Mesothelae		
科名	ハラフシグモ科		
科名学名	Liphistiidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：II (VU)	



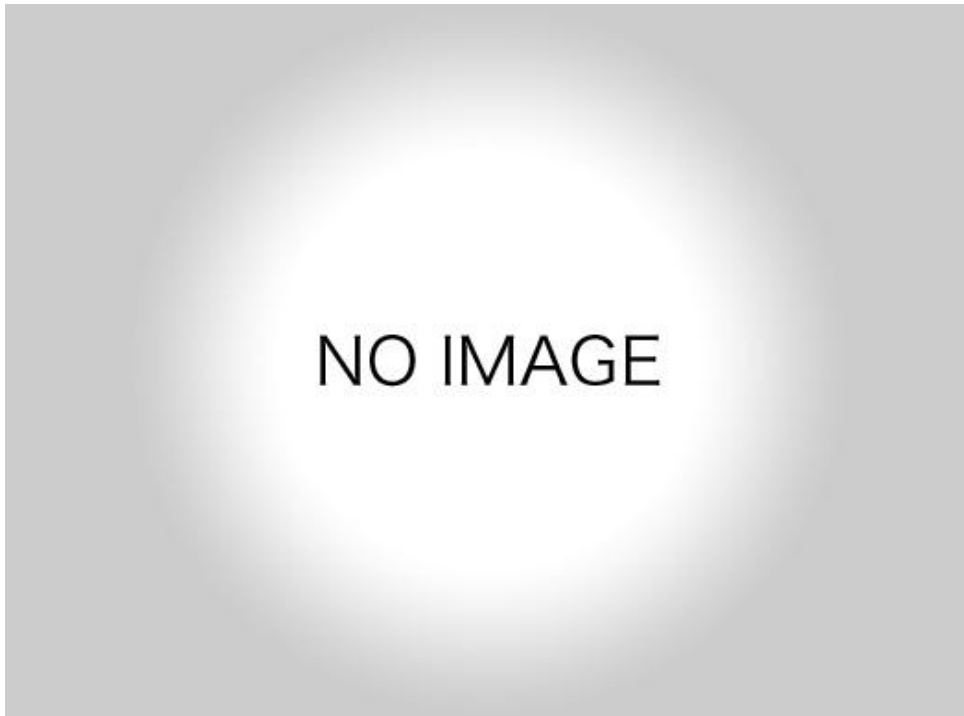
【選定理由】

生息北限地帯のキムラグモ個体群で、最近の開発企画がこの北限地帯において、大規模・高頻度で計画されつつあり、地域個体群そのものの生息状況が急激に劣化しつつある。

県内分布	日田市, 玖珠町(一部山国町), 安心院町, 山香町, 日出町, 以南
分布域	福岡県八女地方, 大分県, 宮崎県北部(熊本県北東部を含む)
世界的分布	
生息環境	標高900m以下の斜面林床, 草地, 裸崖地などに, 地表面に直接穿孔して生息巣をつくり, 歩行性昆虫類を捕食する。
現状	特に標高200~400m地帯で, 開発行為により個体群が消滅した事例が多い。
備考	

深島のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai	
目名	ハラフシグモ亜目	
目名学名	Mesothelae	
科名	ハラフシグモ科	
科名学名	Liphistiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



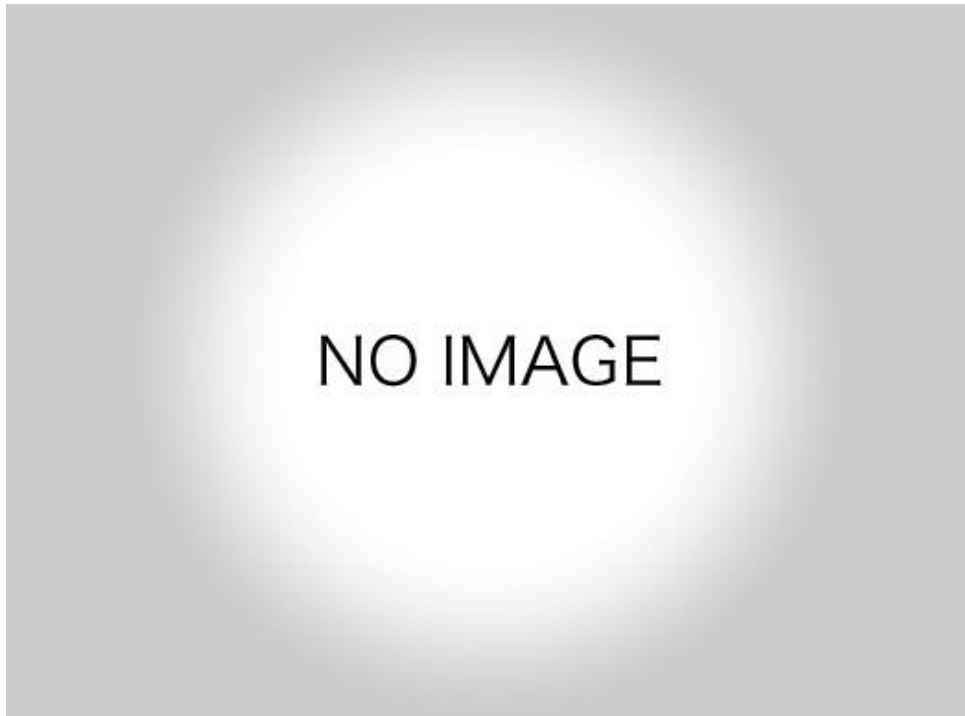
[選定理由]

森林遷移により生息環境が荒廃しつつある。

県内分布	佐伯市深島
分布域	
世界的分布	
生息環境	深島のシイ林
現 状	学校周辺の森林内部に残った小規模個体群で、森林内部の隔絶個体群であることから地域亜種もしくは独立種として検討中の個体群。
備 考	

大入島のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai	
目名	ハラフシグモ亜目	
目名学名	Mesothelae	
科名	ハラフシグモ科	
科名学名	Liphistiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



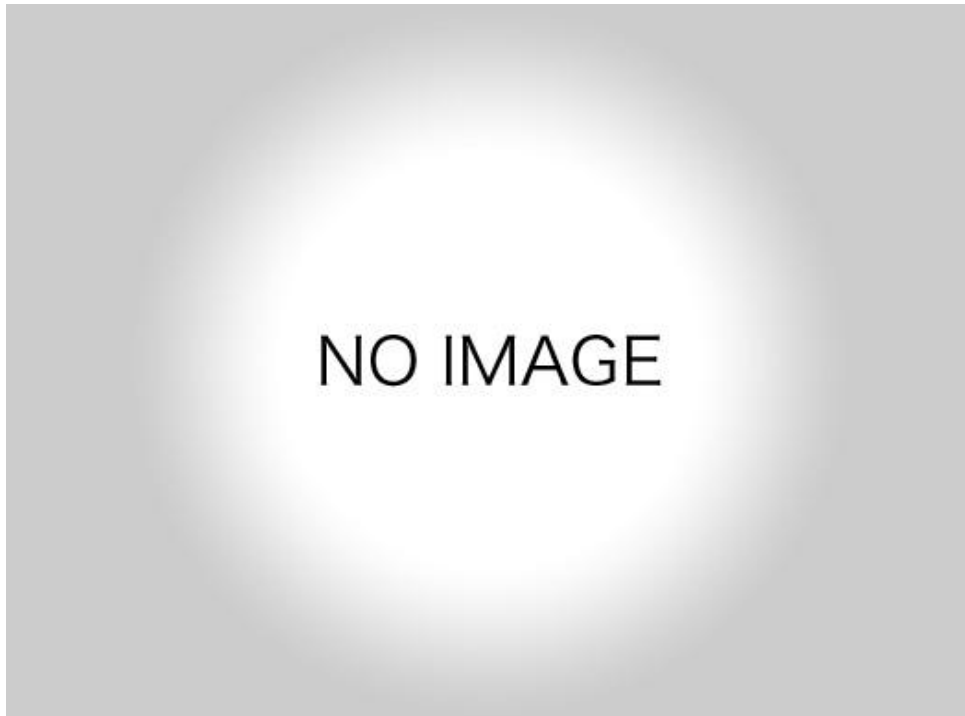
[選定理由]

生息地が孤立化しつつあり、個体群のサイズが劣化中である。

県内分布	佐伯市大入島
分布域	
世界的分布	
生息環境	大入島のコジイ・ウバメガシなど海岸林
現 状	大入島荒網代・塩内・日向泊などに連続的な分布を示す地域個体群で、同じく地域亜種であるか独立種であるか検討中の個体群。
備 考	

保戸島のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai	
目名	ハラフシグモ亜目	
目名学名	Mesothelae	
科名	ハラフシグモ科	
科名学名	Liphistiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



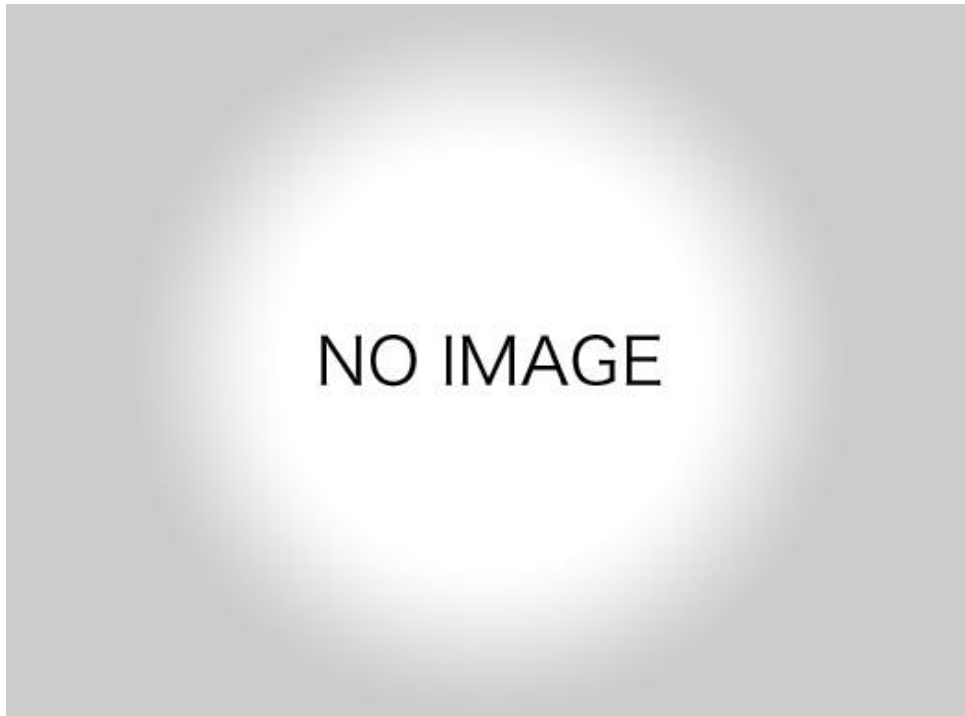
[選定理由]

生息地の斜面が狭小化した。

県内分布	津久見市保戸島
分布域	
世界的分布	
生息環境	保戸島の山地脊梁部にだけ生息している小規模な離島個体群
現状	峠の踏み分け道が管理不能な状態になり、草地がウバメガシ林に遷移し、生息環境が変化した離島個体群であるが、島の名称を冠した種として検討中の極めて小規模な個体群となっている。
備考	

沖黒島のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai		
目名	ハラフシグモ亜目		
目名学名	Mesothelae		
科名	ハラフシグモ科		
科名学名	Liphistiidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし	



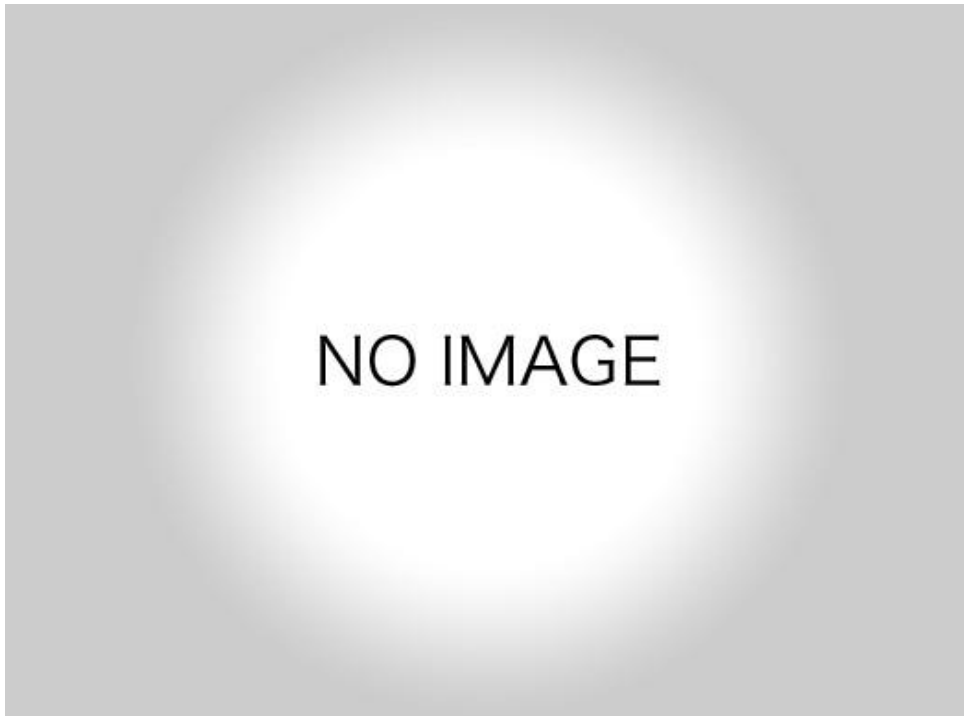
[選定理由]

生息地の海浜斜面が荒廃した。

県内分布	米水津村沖黒島
分布域	
世界的分布	
生息環境	沖黒島のコジイ林林縁に生息する小規模な離島個体群
現状	沖黒島の西海岸にあるコジイ林林縁に生息する極めて小規模な離島個体群で、他の離島と同じく島の名称を冠して種と認められる可能性が高く、キムラグモの系統分類上注目される。
備考	

縦の木峠のブンゴキムラゲモ个体群

学名	Heptathela kikuyai		
目名	ハラフシグモ亜目		
目名学名	Mesothelae		
科名	ハラフシグモ科		
科名学名	Liphistiidae		
カテゴリー	大分県：地域个体群(LP)	環境省：掲載なし	



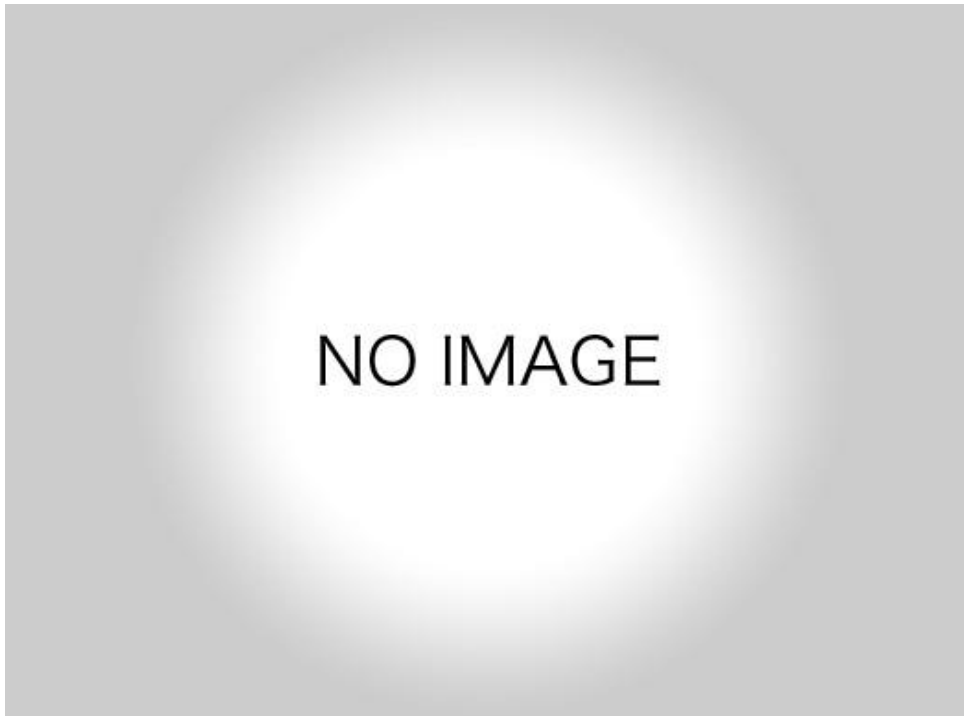
[選定理由]

生息地の斜面が荒廃し、个体群のサイズが劣化中である。

県内分布	佐賀関町縦の木峠小志生木側斜面
分布域	
世界的分布	
生息環境	佐賀関 縦の木峠 小志生木側果樹園の階段構造斜面に生息する小規模个体群
現 状	果樹園の経営が放棄され路側斜面が荒廃して、小規模な崩落が発生。斜面が乾燥し生息地が消滅しつつある。
備 考	

丸田のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai		
目名	ハラフシグモ亜目		
目名学名	Mesothelae		
科名	ハラフシグモ科		
科名学名	Liphistiidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし	



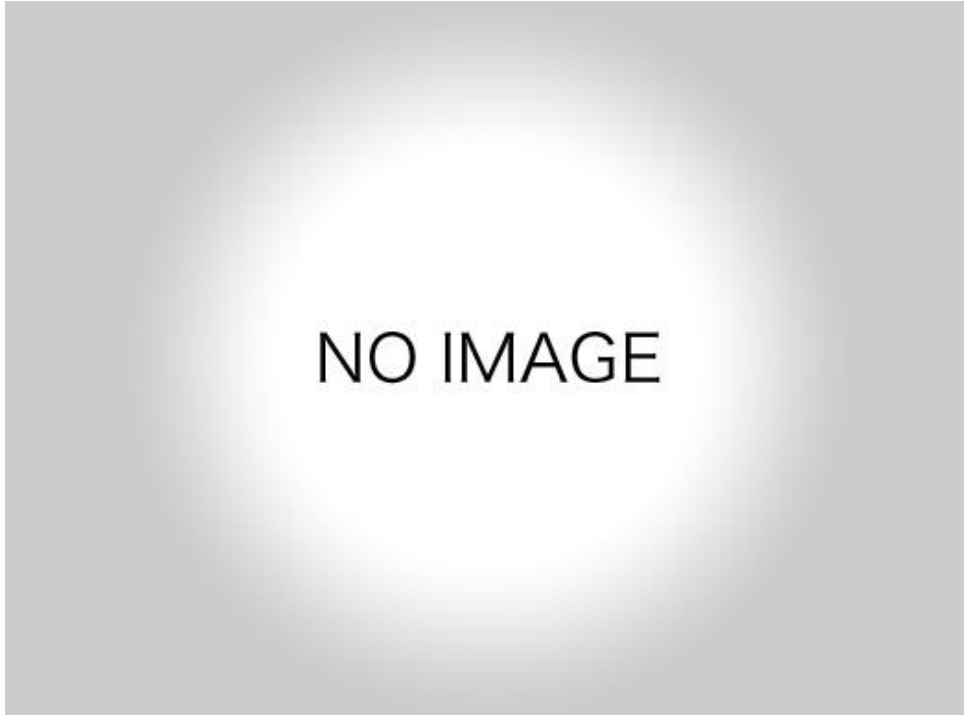
[選定理由]

個体群の衰弱が激しく消滅の恐れがある。

県内分布	安心院町丸田地域
分布域	
世界的分布	
生息環境	国道500号線周辺の切削斜面の個体群
現状	丸田の国道500号線周辺に生息する北限地帯の孤立個体群で周辺の開発行為により生息地がコンクリート張りの斜面になり、生息不能に瀕している。
備考	

福貴野のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai		
目名	ハラフシグモ亜目		
目名学名	Mesothelae		
科名	ハラフシグモ科		
科名学名	Liphistiidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし	



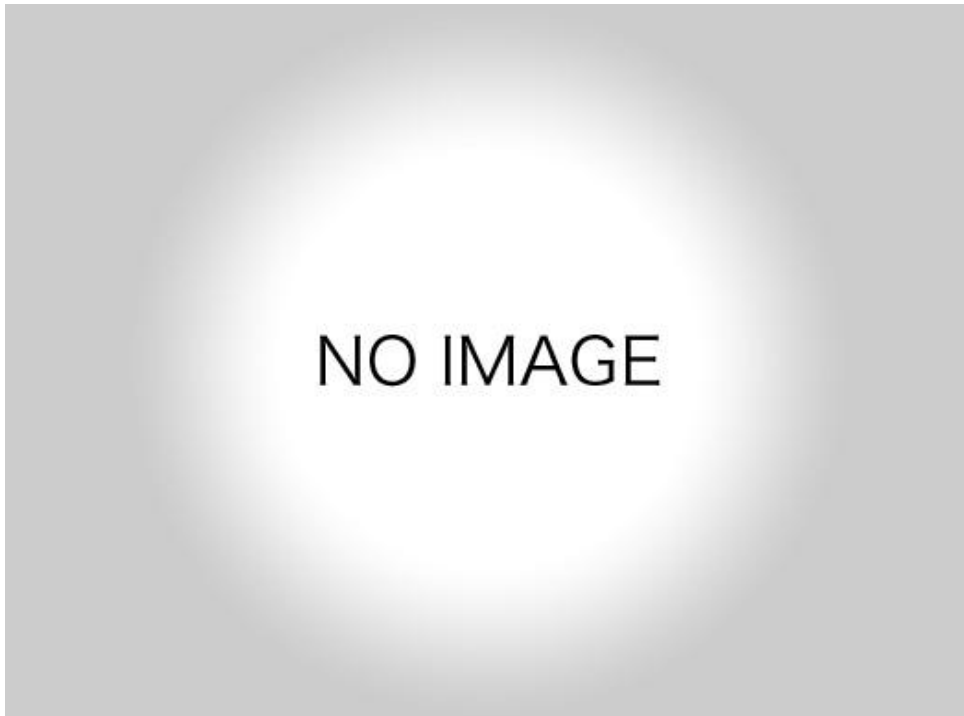
[選定理由]

個体群の衰弱が激しく消滅の恐れがある。

県内分布	安心院町福貴野
分布域	
世界的分布	
生息環境	安心院町福貴野地域のアラカシ林などに生息する北限地帯の小規模個体群
現 状	生息地の斜面を全てコンクリート張りとする道路工事が実施され、生息地が狭小化した。
備 考	

道の迫のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai	
目名	ハラフシグモ亜目	
目名学名	Mesothelae	
科名	ハラフシグモ科	
科名学名	Liphistiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



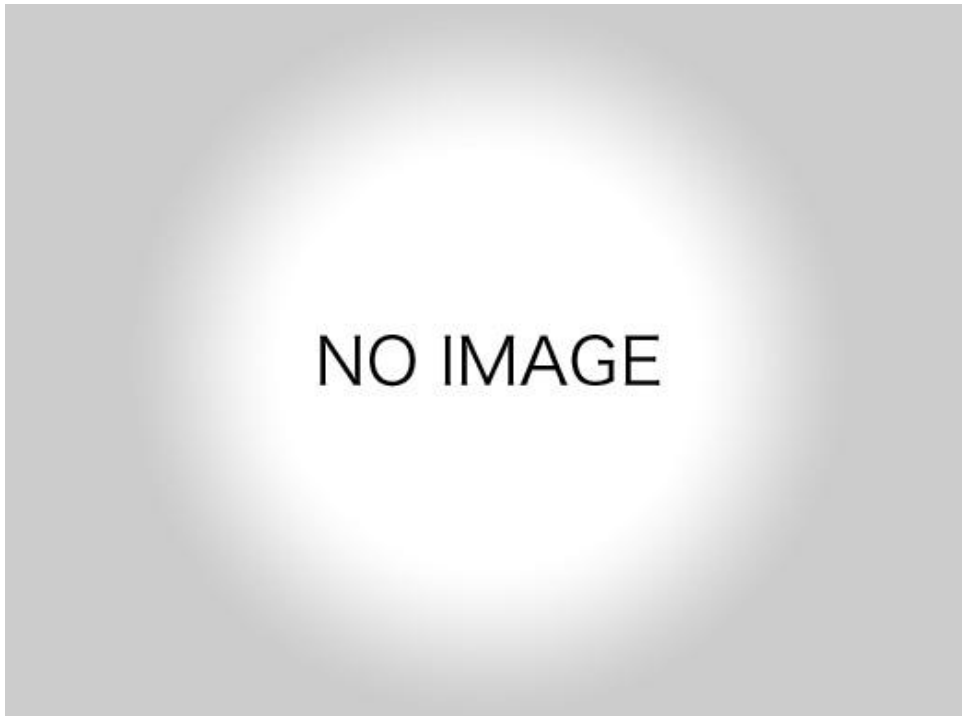
[選定理由]

個体群の衰弱が激しく消滅の恐れがある。

県内分布	玖珠町古後道の迫
分布域	
世界的分布	
生息環境	道の迫アカマツ林周辺の林縁にいる北限地帯の個体群
現 状	耶馬溪と玖珠町をつなぐ作業用林道等の周辺でアカマツ林内の斜面に生息していた小規模な北限地帯前線個体群だが、生息地付近での道路開設により生息環境がコンクリート張りとなるなど生息地が狭小化し、消滅しつつある。
備 考	

津江地域のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai	
目名	ハラフシグモ亜目	
目名学名	Mesothelae	
科名	ハラフシグモ科	
科名学名	Liphistiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



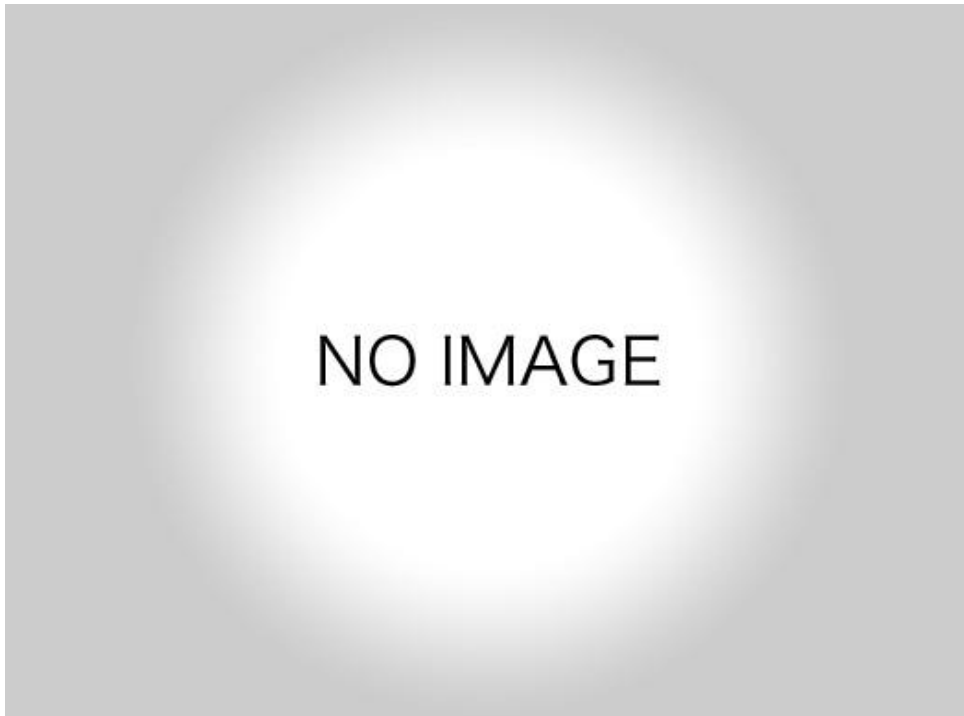
[選定理由]

個体群の衰弱が激しく消滅の恐れがある。

県内分布	前津江村・中津江村・上津江村・大山町
分布域	
世界的分布	
生息環境	津江地域の山林・大山町北部の山地などスギ植栽林の北限地帯の個体群
現 状	津江山地は福岡県星野村からの繋がり九州のキムラグモ北限地帯の一部分に当たる。現在ダム建設で赤石川両岸の個体群は水没の危機に瀕しており、この地域の個体群の消滅により北限地帯前線部が断絶するおそれがある。
備 考	

月出山のブンゴキムラグモ個体群

学名	Heptathela kikuyai		
目名	ハラフシグモ亜目		
目名学名	Mesothelae		
科名	ハラフシグモ科		
科名学名	Liphistiidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし	



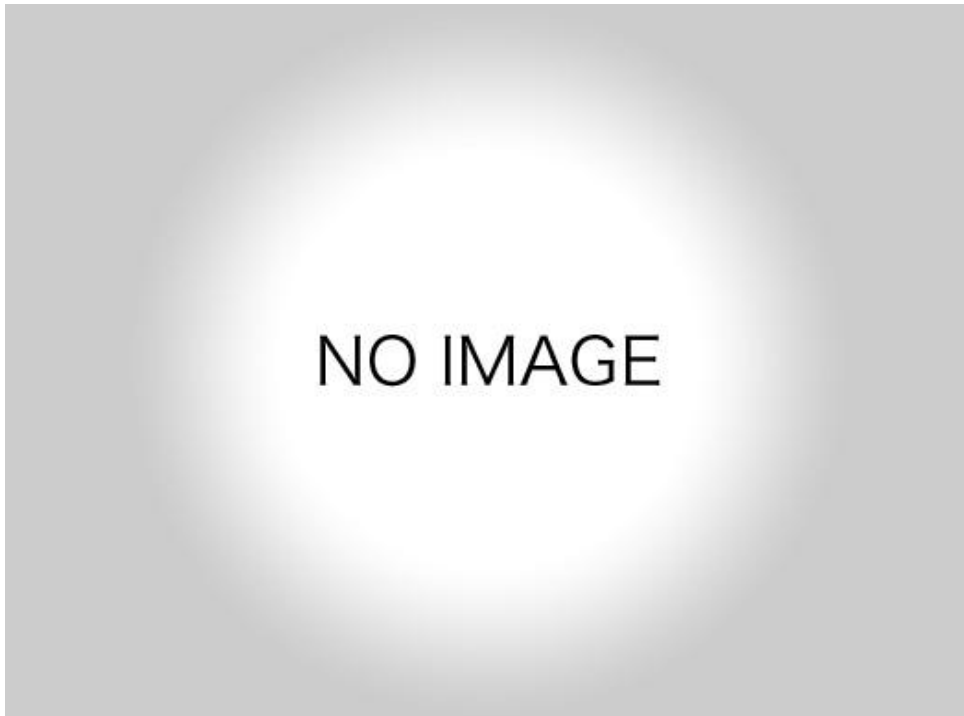
[選定理由]

個体群の衰弱が激しく消滅の恐れがある。

県内分布	日田市月出山
分布域	
世界的分布	
生息環境	日田市月出山岳一帯のスギ植栽林内に小規模に残るアラカシ林の林縁部などに小規模個体群として生息する北限地帯の個体群
現状	月出山岳北斜面に生息する小規模個体群で、付近の道路整備に伴い生息地斜面がコンクリート被覆され、個体群の生息できない条件が整いつつある。
備考	

一尺八寸山のブンゴキムラゲモ個体群

学名	Heptathela kikuyai	
目名	ハラフシグモ亜目	
目名学名	Mesothelae	
科名	ハラフシグモ科	
科名学名	Liphistiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



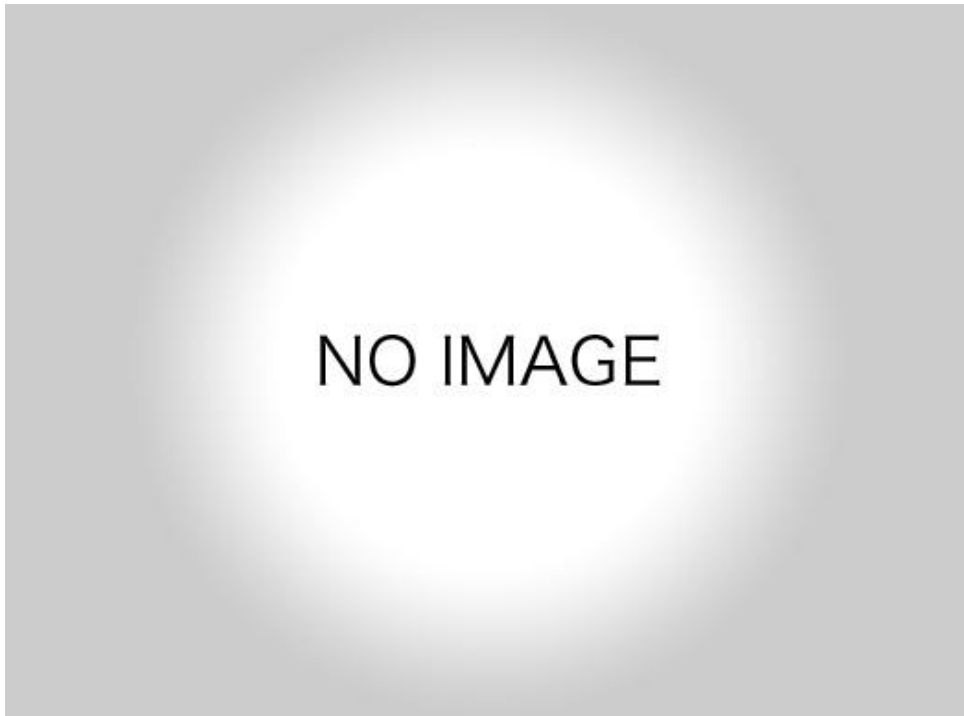
[選定理由]

個体群の衰弱が激しく消滅の恐れがある。

県内分布	日田市羽田 一尺八寸山
分布域	
世界的分布	
生息環境	日田市羽田 一ツ尾 一尺八寸山の南斜面ニ生息する北限地帯の個体群
現 状	道路整備に伴う生息地のコンクリート被覆による消滅が進行し、個体群の生息が不能となりつつある。
備 考	

キノボリトタテグモ

学名	Conothela fragaria	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	トタテグモ科	
科名学名	Ctenizidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： 準 (NT)



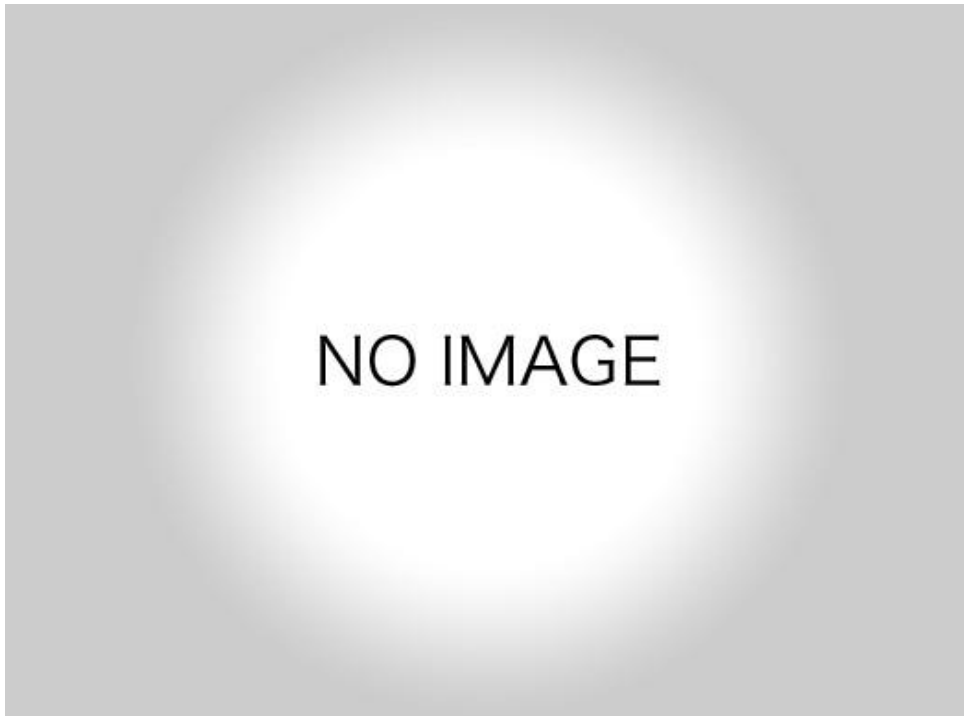
【選定理由】

自然林、社寺林の大径木樹皮などに袋状生活を造成して生息する習性を持つが、これらの樹木類に関する管理などにより個体数が急減している。

県内分布	県内全域の標高0～800m地帯の大径木、自然崖の乾燥した場所
分布域	本州南部、四国、九州、南西諸島
世界的分布	
生息環境	大径木の樹皮で、照葉樹のうち、コジイ、タブノキ、クスノキ、イチイガシなど、針葉樹のうち、スギ、ヒノキ、マツ類、落葉樹でカキノキ、ケヤキなどに営巣する。
現状	県内では、ほとんど目撃できなくなった。1999年12月現在、17例が確認されている。
備考	

マシラグモの一種

学名	Leptoneta sp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	マシラグモ科	
科名学名	Leptonetidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



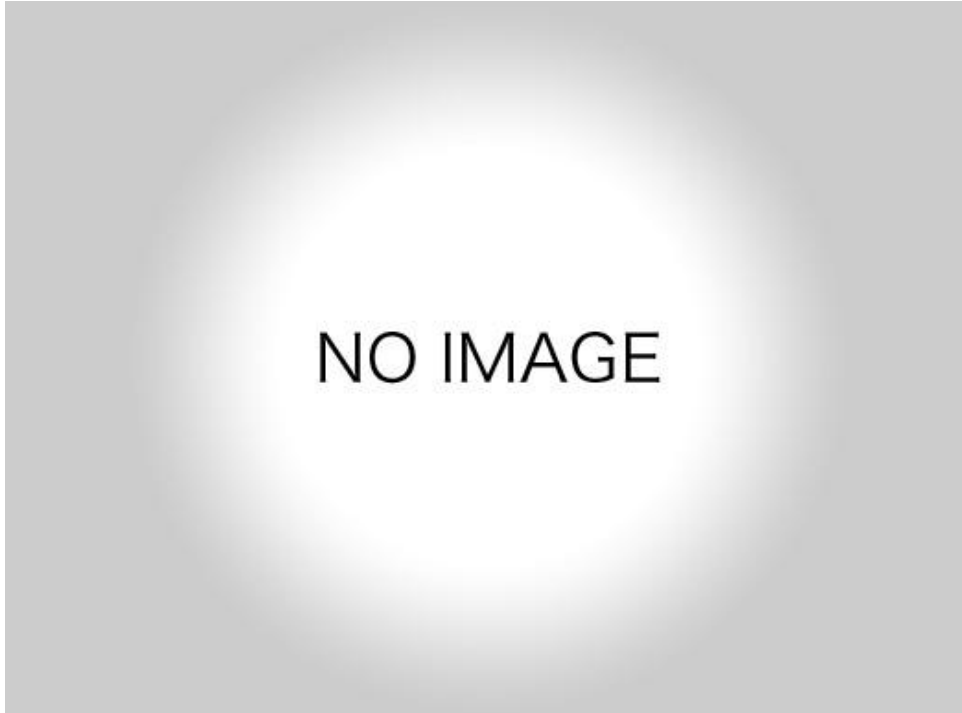
[選定理由]

洞窟など暗環境に適応するクモで、各洞窟、各暗環境ごとに、いくつかのタイプの種にかたよる傾向がある。環境条件の変化に鋭敏であるため、個体群そのものの消滅のおそれが高い。

県内分布	山国町, 耶馬溪町, 本耶馬溪町, 前津江村, 安心院町, 豊後高田市, 香々地町, 上津江村, 九重町, 山香町, 湯布院町, 別府市, 直入町, 大分市, 竹田市, 緒方町, 清川村, 三重町, 野津町, 臼杵市, 津久見市, 本匠村, 弥生町, 佐伯市, 鶴見町, 米水津村, 宇目町, 蒲江町
分布域	
世界的分布	
生息環境	石灰洞, 侵食洞, 岩裂, 暗渠, 古い人工洞などの壁面で湿度の高い凸凹面。
現状	自然洞に対する人為的破壊, 明環境化, コンクリート板覆などによって, 生息環境が消滅しつつあり, これに伴って, 個体数は急減している。
備考	日本固有属, 日本固有種。日本哺乳類学会: 保護すべき地域個体群(九州)

ミズグモ

学名	Argyroneta aquatica	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ミズグモ科	
科名学名	Argyronetidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：II (VU)

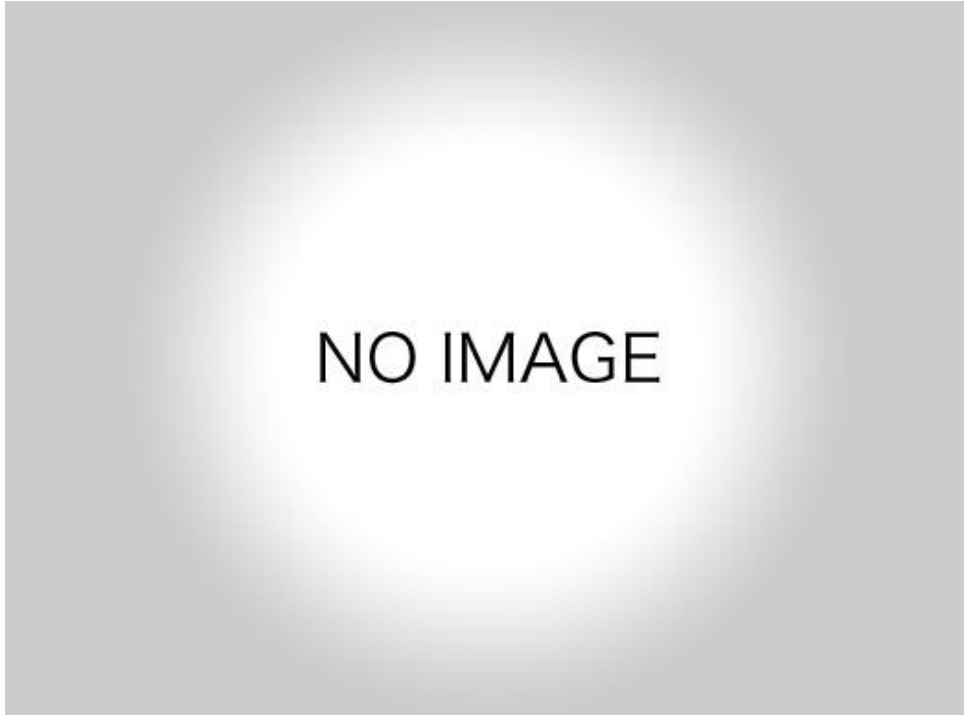


[選定理由]

県内分布	(湯布院町小田の池)
分布域	北海道, 本州, 九州
世界的分布	
生息環境	高層湿原の水中, タヌキモなどに捕集した空気球をつくり, その中で営巣し産卵, 幼蛛を育てる。
現 状	1981年5月4日, 桂孝次郎によって, 湯布院町小田の池周辺湿地で発見され, 一挙に生息南限地を九州にまで拡大するきっかけとなった。
備 考	

ミカドヤチグモ

学名	Coelotes micado	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヤチグモ科	
科名学名	Coelotidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

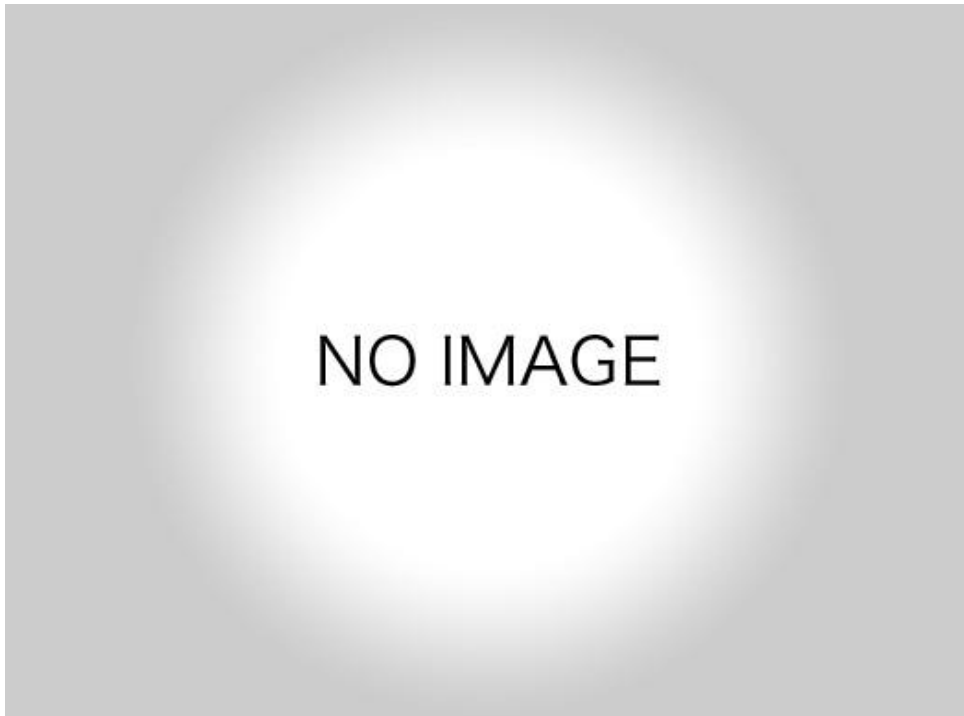


[選定理由]

県内分布	由布山麓
分布域	不明
世界的分布	
生息環境	林内のリター, 低木の根株周辺。
現 状	佐藤真一によって確認されている事例があるが, 1985年以来目撃例がない。
備 考	

ウスイロヤチグモ

学名	C.decoler	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヤチグモ科	
科名学名	Coelotidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

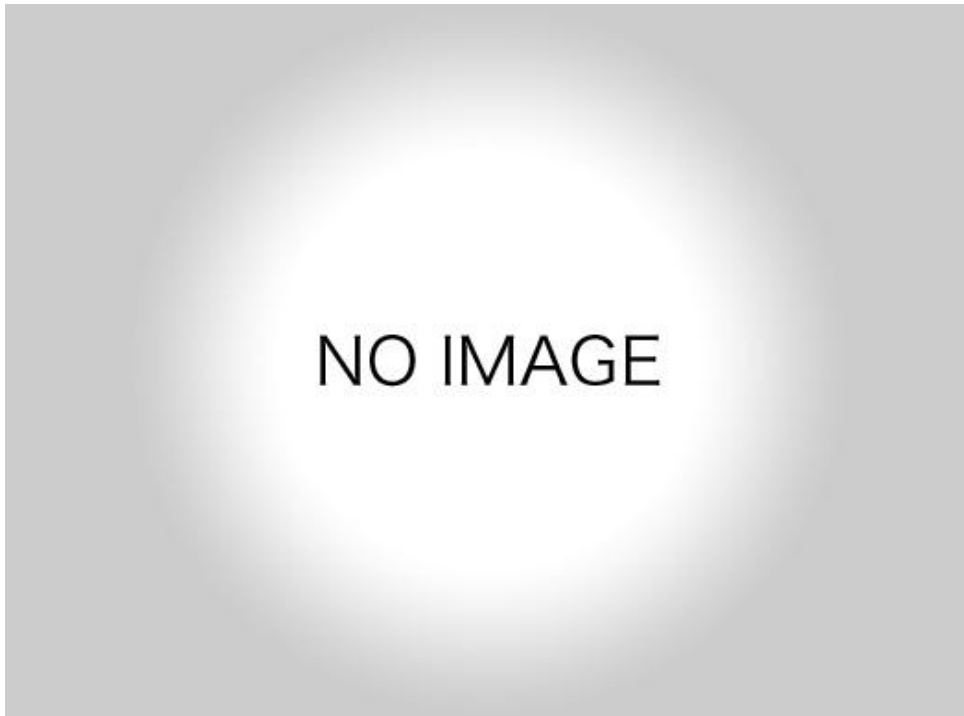


[選定理由]

県内分布	上津江村, 前津江村, 大分市, 佐賀関
分布域	本州, 九州
世界的分布	
生息環境	山地の岩崖, 岩裂などが主たる生息地であるが, 崖地などでも同じような環境を選び, ロート状網を張る。
現 状	県内でも津江山系, 大分市縦の木峠の2か所で確認されているだけ。
備 考	

ヤチグモ類

学名	Coelotes spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヤチグモ科	
科名学名	Coelotidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

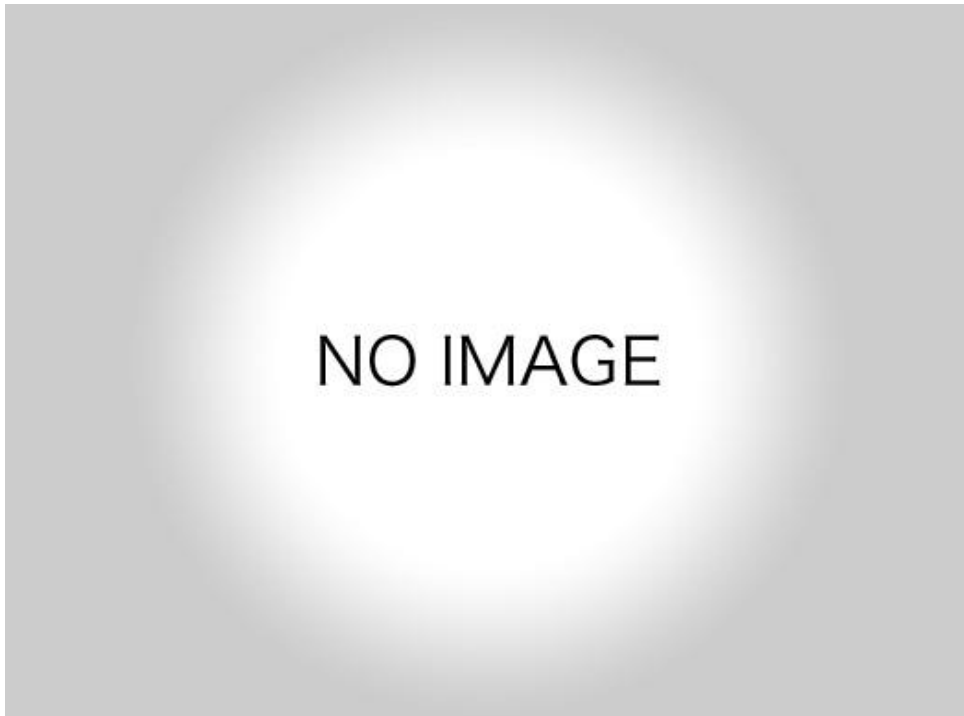


[選定理由]

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州中部以南, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	主として農村地帯～自然林。森林のリター, 袖群落の根方, 林内崖地の窪みなどに棚網を作って生息。
現 状	各地域の自然林のリターや洞穴などで, 複数のヤチグモ類が確認されているが, 西川による多様性判断に従い, 大分県内の属は未だ種未確認のものが多い。
備 考	

ドウシグモ

学名	Doosia japonica	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ホウシグモ科	
科名学名	Zodariidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：情報不足 (DD)

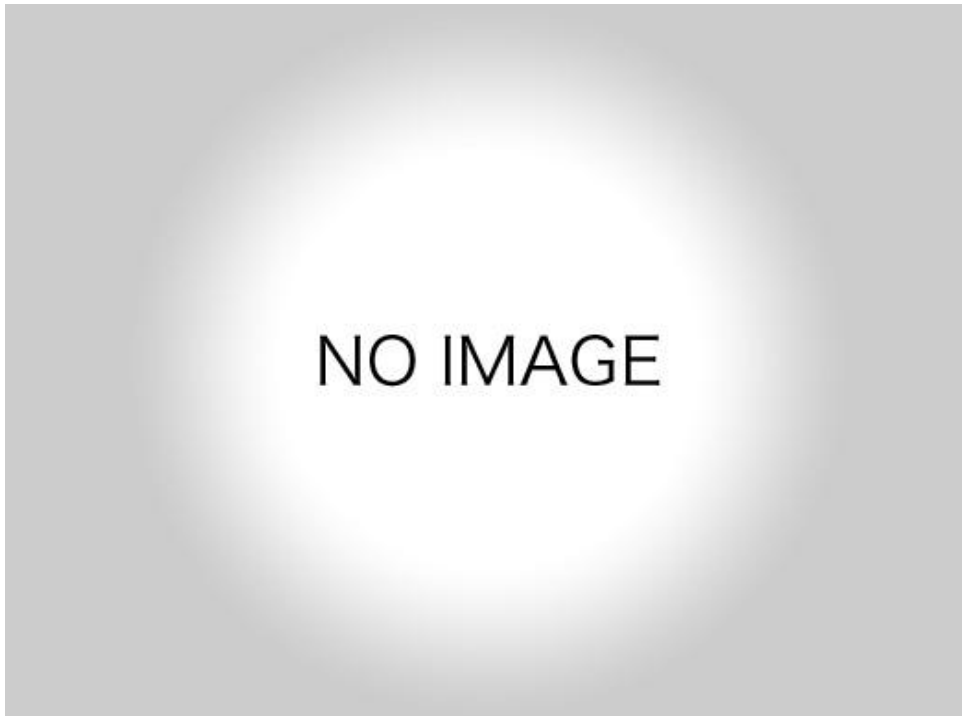


[選定理由]

県内分布	日田津江山系, 大分市～佐賀関町低山丘陵(縦の木山系), 三重町大白谷, 臼津石灰岩台地
分布域	本州, 四国, 九州, 南西諸島
世界的分布	
生息環境	クスノキ, ヤマザクラなどの樹枝間を徘徊。
現 状	県内でも4か所の確認事例しかない。
備 考	

クリチャササグモ

学名	Oxyopes badius	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ササグモ科	
科名学名	Oxyopidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

1980年代初頭から急激に減少した種。1999年8月現在、県内では一桁の確認数。

県内分布	大分市, 臼杵市, 佐伯市, 米水津村
分布域	本州, 九州
世界的分布	
生息環境	草原の草間, 林縁の樹枝間を徘徊して昆虫などを捕食。
現 状	減少が著しい。大分市東部坂ノ市地域ではほとんど目撃できなくなった。
備 考	

チビサラグモの1種

学名	Nematogmus sp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

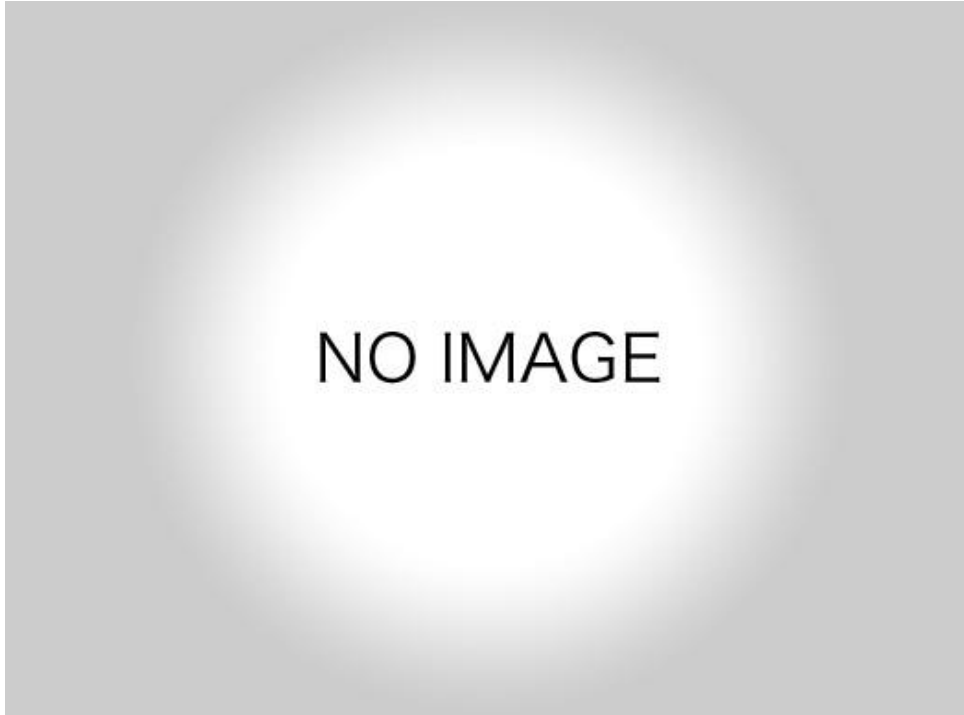


[選定理由]

県内分布	大分市東部, 佐賀関町
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	山地の草地。草本層の特に根元や株もとなどにシート網を張る。
現 状	コジイ林林縁部などのコモチシダ群落に生息するも、県下では佐賀関町～大分市坂ノ市などに希に確認される。
備 考	

イマダテテングヌカグモ

学名	Oia imadatei	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



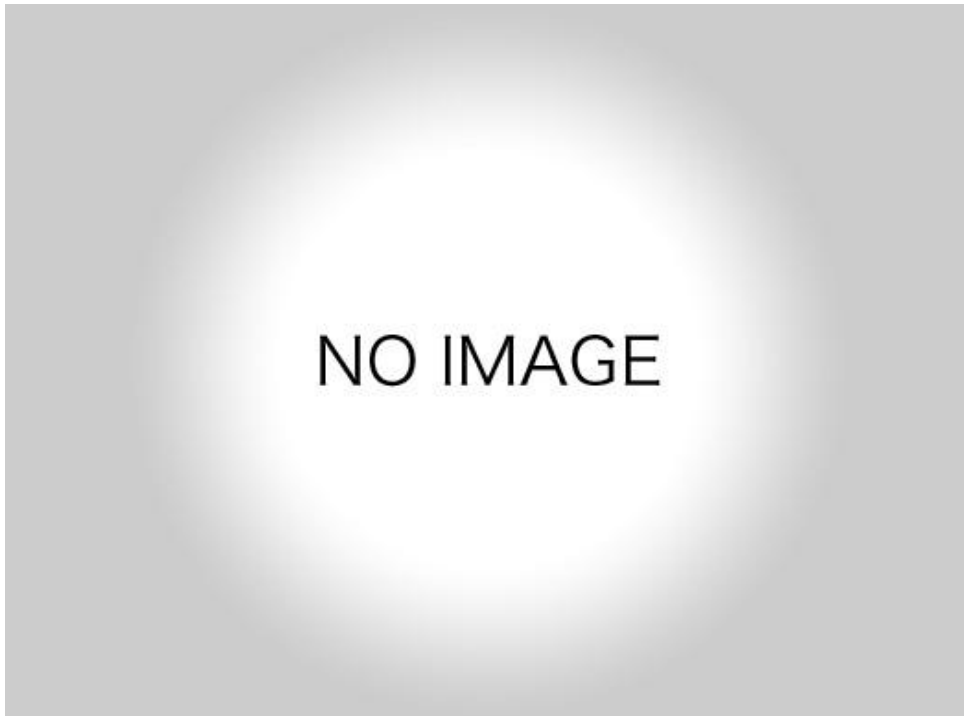
[選定理由]

道路開設により生息環境が劣化した。

県内分布	宇目町・佐伯市
分布域	
世界的分布	サハリン・ロシア・韓国
生息環境	分布は広いが個体数は九州では少ない。地表面や落葉層に生息。
現 状	現在のところ佐伯市神楽山及び宇目町鑑川松谷で確認されている。
備 考	

アカムネグモの1種

学名	Ummeliata sp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	久住町, 宇目町
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	耕作地表面のくぼ地などに造網。
現 状	水田, 畑地などの畔や, 稲刈取りあとのくぼ地などに極めて希な個体。久住町, 宇目町などにわずかに生息。
備 考	

カグラゴマグモ

学名	Kagurargus kikuyai	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



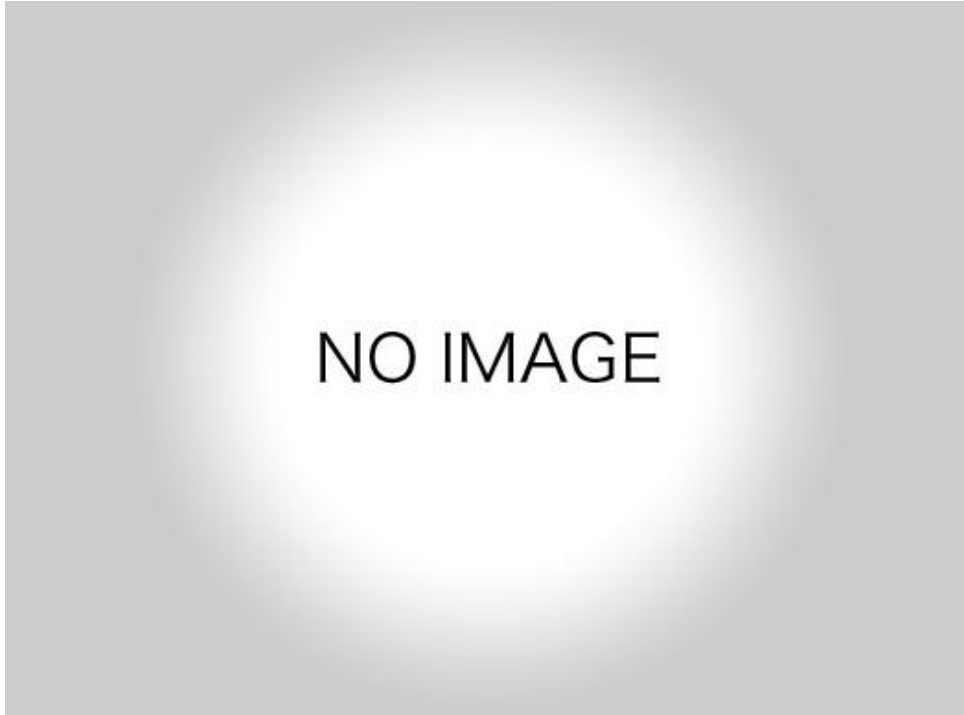
【選定理由】

2007年に新種記載された、日本固有の1属1種。生息地斜面の乾燥化による生息環境悪化で個体群サイズの劣化が進行している。

県内分布	佐伯市神楽山の乾燥落葉層
分布域	
世界的分布	
生息環境	九州他地域での生息分布の可能性はあるが、現在、佐伯市青山の神楽山コジイ林クロキの落葉層でだけ個体が確認されている。
現 状	佐伯市神楽山でだけ確認された希少種。
備 考	

ズキンヌカグモ類

学名	Gongylidioides spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

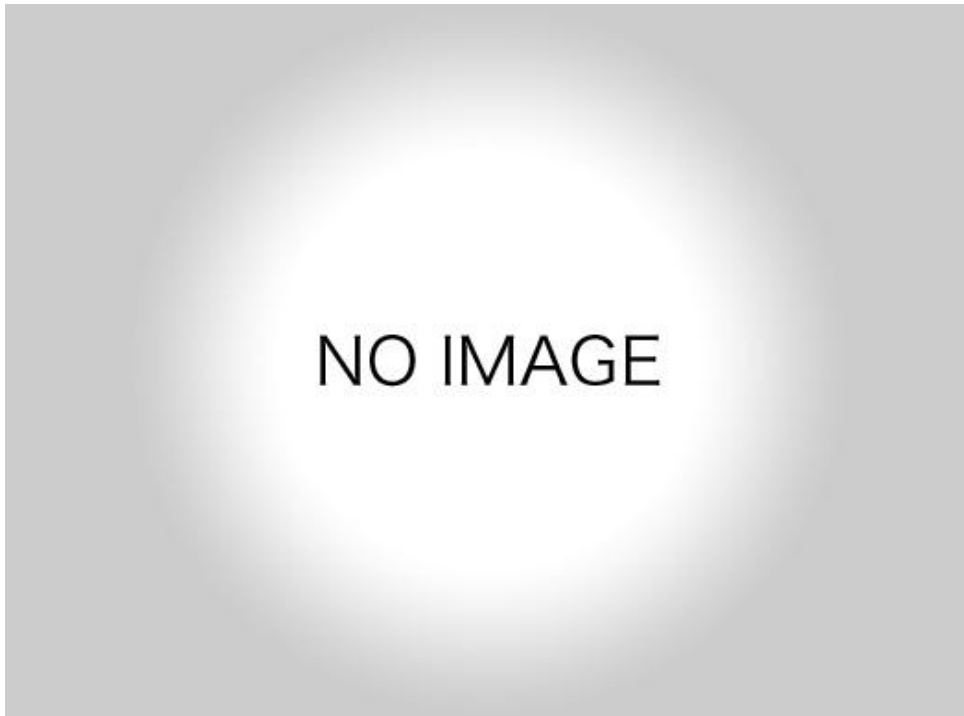


[選定理由]

県内分布	ほぼ県内全域と思われる。
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	アラカシ林, コジイ林などの林内の岩崖のくぼみなどに造網。
現 状	大分市, 竹田市, 三重町, 臼杵市などのアラカシ林, コジイ林に希に生息し, 個体数も少ない。各地で報告があるが未記載。和名, 学名ともに未定。
備 考	

ゴマグモ類

学名	Micargus spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

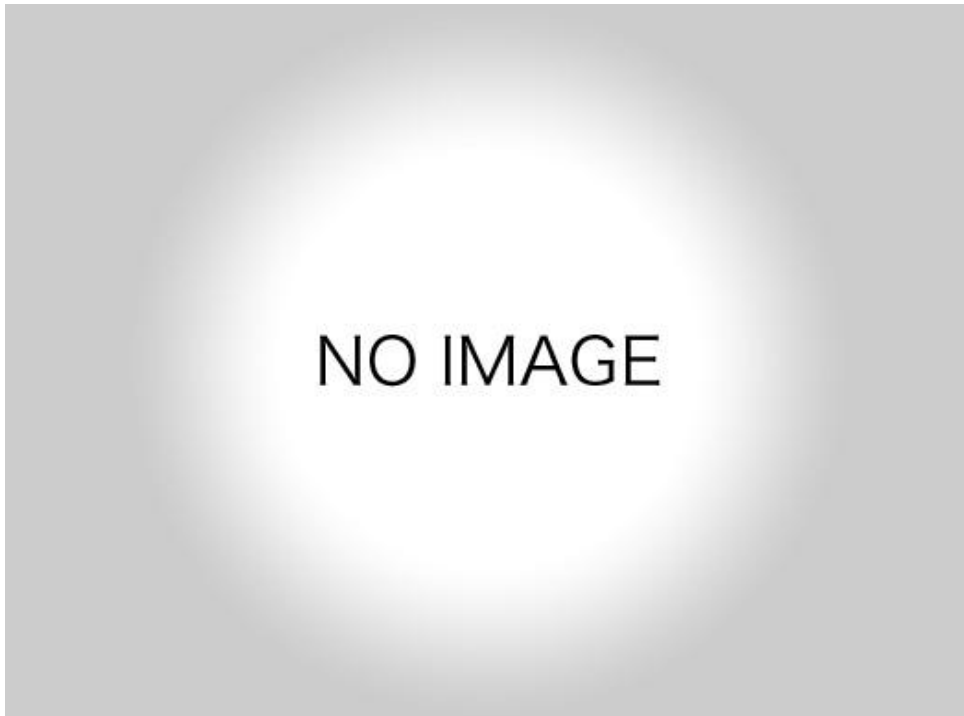


[選定理由]

県内分布	大分市柞原八幡宮の森
分布域	本州, 本州(高地), 九州(大分)
世界的分布	
生息環境	照葉樹林のリター, Ao層。
現 状	大分市柞原八幡宮のコジイ林でのみ記録, 林内林床部Ao層に生息する希な種である。(Micargas acuiteglatus)を含む。
備 考	

ヌカグモ類

学名	Tmeticus spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

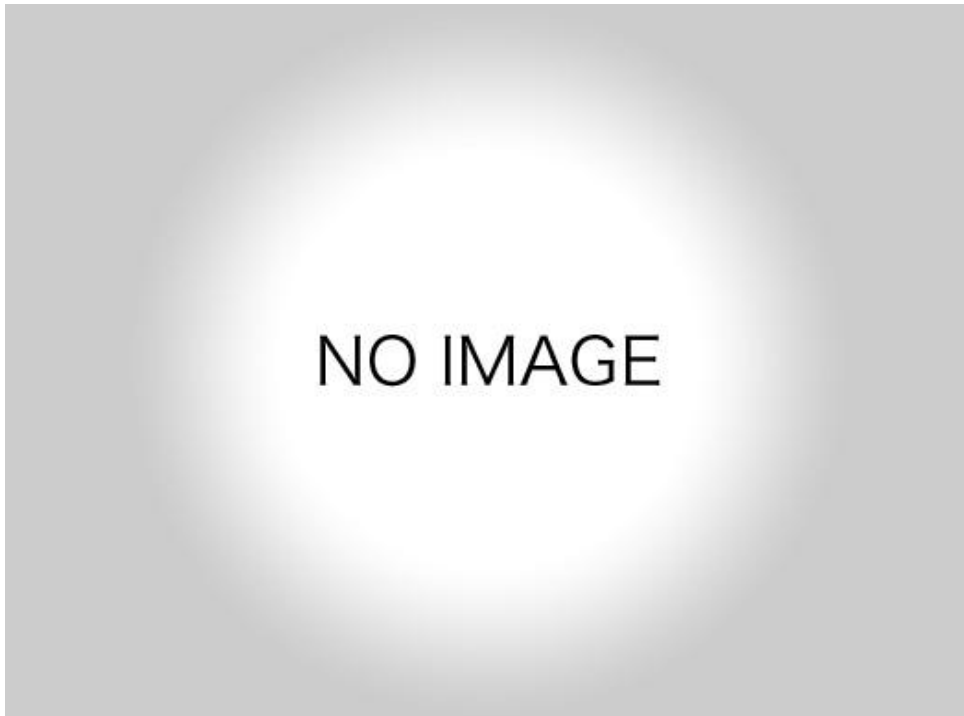


[選定理由]

県内分布	ほぼ県内全域と思われる。
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	アラカシ林, コジイ林などの林内の岩崖のくぼみなどに造網。
現 状	大分市, 竹田市, 三重町, 臼杵市などのアラカシ林, コジイ林に希に生息し, 個体数も少ない。各地で報告があるが未記載。和名, 学名ともに未定。
備 考	

ヨツボシサラグモ類

学名	Strandera spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

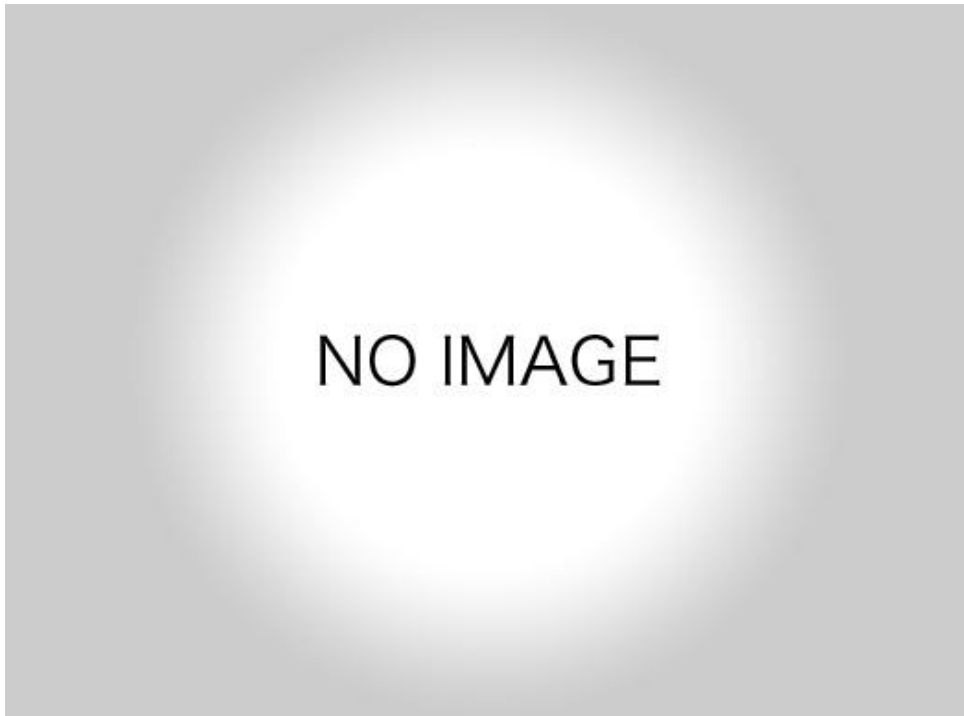


[選定理由]

県内分布	九重町, 久住町, 宇目町
分布域	本州, 九州
世界的分布	
生息環境	森林林縁部などの低木やブッシュの植生空間に生息するが, 落葉層空間などにも生息する。
現 状	標高400~1,000m付近のリュウツギ, ネジキなどの低木で極めて希に遭遇する種で, 小規模範囲に小個体群を形成する。
備 考	

ヤミサラグモ類

学名	Arcuphantes spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



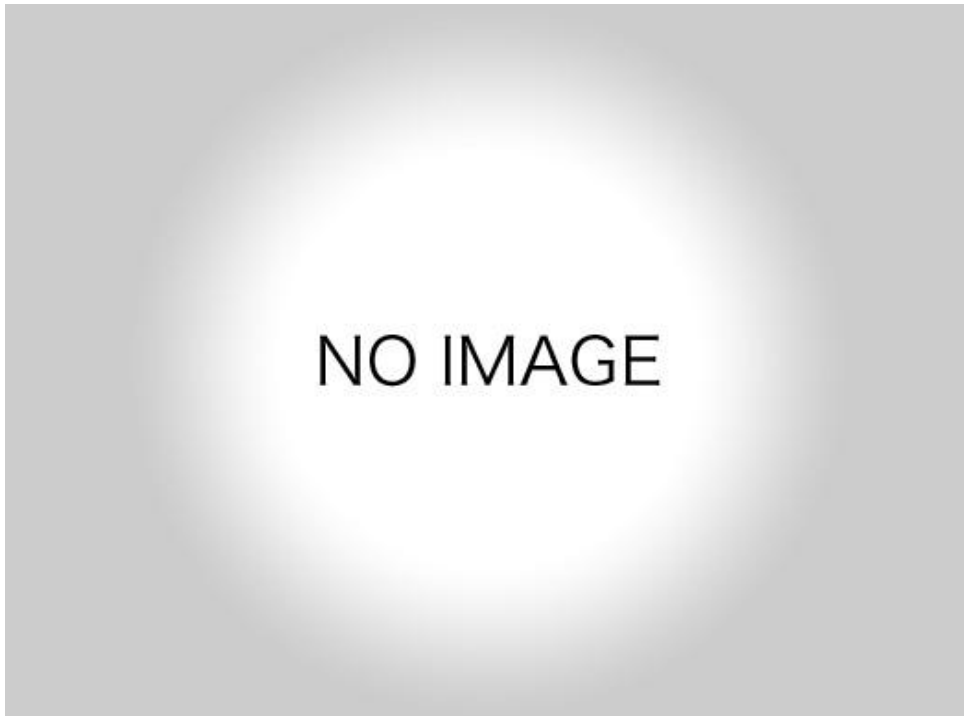
[選定理由]

山国町天の岩戸溪流, 大分市九六位山経塚, 臼杵市東沖野, 米水津村沖黒島などの林内陰地の林床, 草むらなどに生息。各生息地ごとに種が異なる傾向がある。

県内分布	山国町天の岩戸溪流, 大分市九六位山経塚, 臼杵市東沖野川原内の穴, 米水津村沖黒島
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	森林林内の草本, 林床, 低木などに造網。
現状	各地とも, 小規模個体群は維持中であるが, 個体数は1990年代に入って減少中。
備考	

ブンゴホラヤミサラグモ

学名	<i>Arcuphantes longi ssimus</i>	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



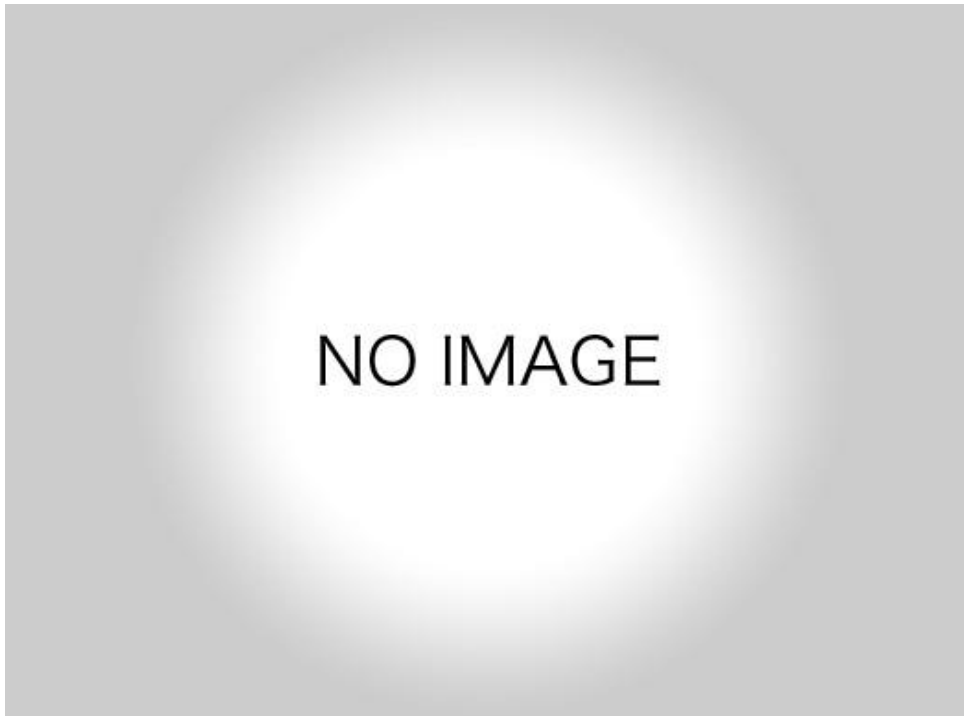
【選定理由】

1998年臼杵市河原内石灰洞で新種記載したが、2010年個体群が成立していることが確認された。生息地周辺の開発により絶滅のおそれがある。

県内分布	臼杵市東神野地区河原内石灰洞
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	石灰洞内の真暗部に生息。岩裂に造網。
現 状	石灰洞そのものが未調査洞で、今後の調査によって解明する必要がある。
備 考	

マルサラグモ類

学名	Centromerus spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

野津町風蓮洞に生息。洞内人工照明により生息環境が狭小化し、個体数が減少している。

県内分布	耶馬溪町錦雲峡, 三重町松尾谷高屋
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	アラカシ林林縁などのコウヤボウキの末端の小枝などに造網。
現 状	耶馬溪町錦雲峡, 三重町松尾谷などに生息するマルサラグモ属の各種, 個体数が極めて少ないため, 情報不足とした。
備 考	

エビノマルサラグモ

学名	Saaristoa ebinoensis	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



[選定理由]

2010年、佐伯市宇目大字木浦鉦山の木浦女郎墓で確認された。極めて小規模な個体群であり個体群サイズが劣化中。

県内分布	宇目町・蒲江町・佐伯青山・三重町・緒方町・大分市
分布域	
世界的分布	
生息環境	コジイなど照葉樹林の林床・落葉層・などやや暗環境になった地表面付近に生息
現 状	県下の各地で調査しても極めて稀少な個体であり現在のところ特定の場所だけの確認に終わっている。
備 考	

キュウシュウアリマネグモ

学名	Solenysa reflexilis	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opisthothelae	
科名	サラグモ科	
科名学名	Linyphiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



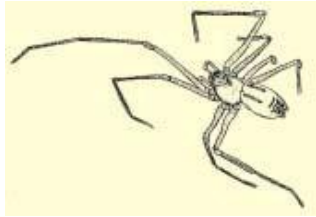
[選定理由]

2009年佐伯市神楽山にて県内で初めて確認された。劣弱個体群である。

県内分布	佐伯市神楽山の乾燥照葉樹林林床
分布域	大分県・熊本県
世界的分布	
生息環境	大分県下では神楽山岳に生息。乾燥した照葉樹林の林床。
現 状	
備 考	

ホラヒメグモ類

学名	Nesticus spp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



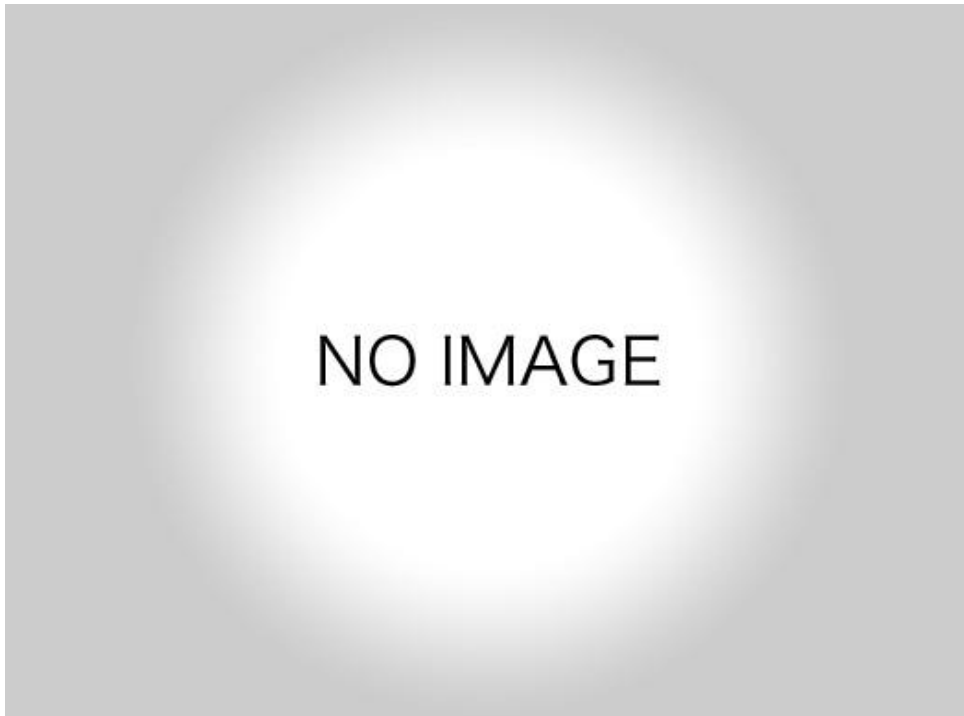
【選定理由】

県下の石灰洞, 侵食洞, 人工トンネル(屈曲型), 掘削壕, 岩裂などに生息するホラヒメグモ類は, ほら穴, 洞・壕ごとに新種として記載される見通しが明らかになっている。

県内分布	山国町草本廃坑, 山香町金山跡, 大分市防空壕跡・魚雷収納壕跡, 佐賀関町防空壕跡, 三重町岩裂, 宇目町千人間歩・天神原洞, 本匠村侵食洞, 鶴見町砲台壕跡, 米水津村沖黒島オオミズナギドリ生息地内, 蒲江町沖黒島林内, 宇目町上津小野のこうもり穴
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	洞・壕内の暗部側壁などのくぼみに造網。
現状	いずれも洞・壕に対する人為管理, 人為干渉が強く, 個体数の減少傾向がみられる。
備考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

ヒゴホラヒメグモ

学名	Nestics Higonsis	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



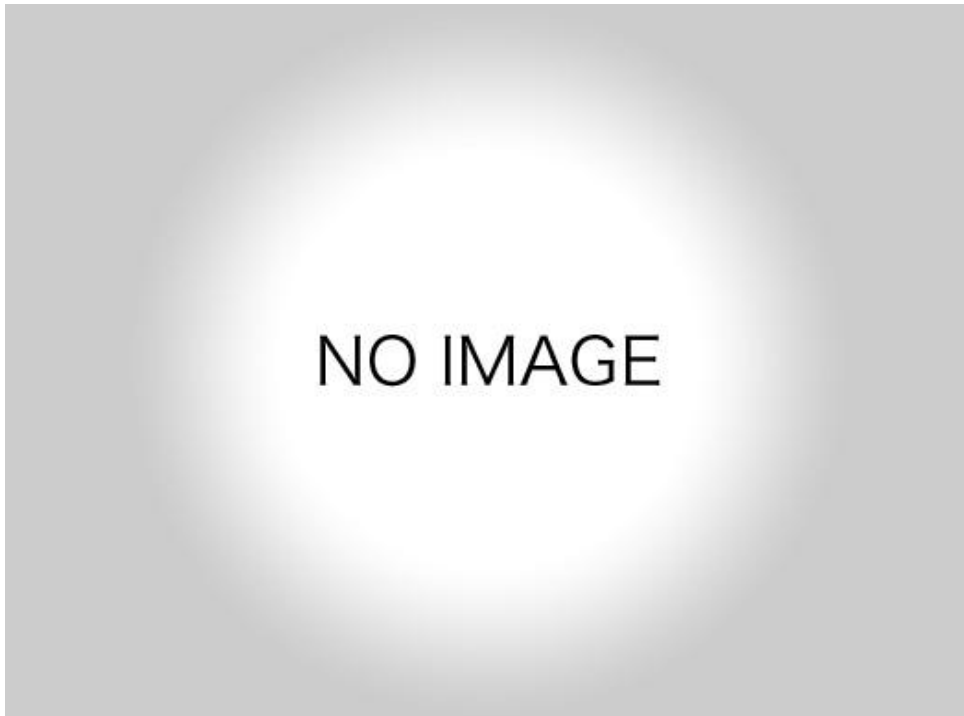
[選定理由]

県下北西部地域の洞穴や岩裂暗部などに生息することが確認された。

県内分布	山国町草本金山跡, 宇目町千人間歩・天神原洞, 宇目町上津小野のこうもり穴, 大山町烏宿神社など
分布域	
世界的分布	
生息環境	山国町、宇目町、日田郡の洞穴や岩裂に生息。
現 状	いずれも洞・壕に対する人為管理, 人為干渉が強く, 個体数の減少傾向がみられる。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

クニサキホラヒメグモ

学名	Nestics kunisakiensis	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



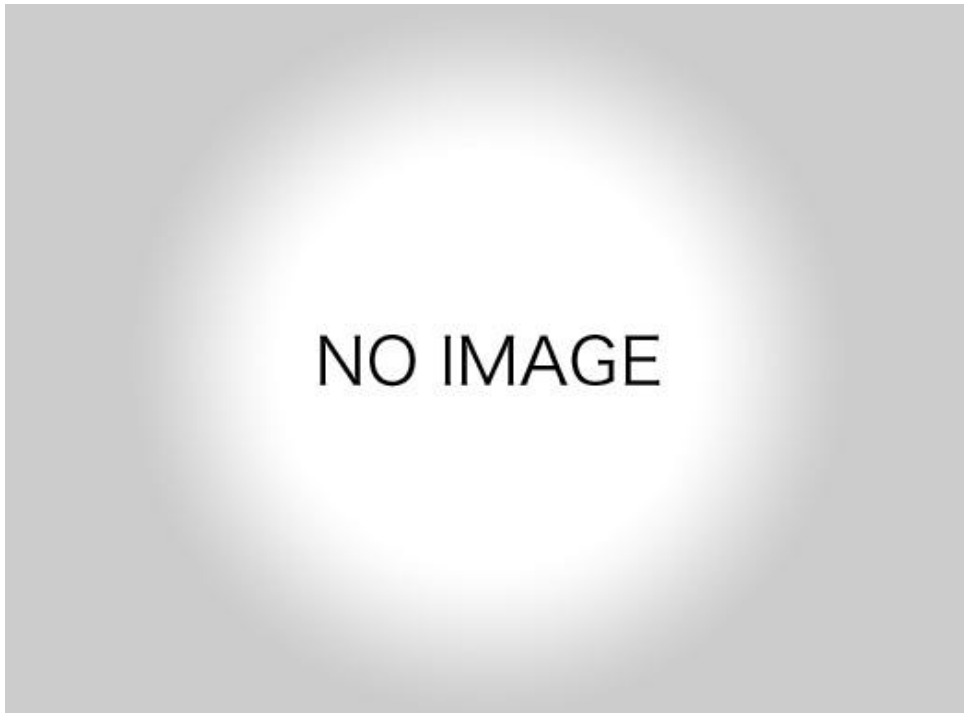
[選定理由]

新種搭載により、国東地域の生息が確認された

県内分布	国東半島一帯の洞窟
分布域	
世界的分布	
生息環境	国東半島の古いトンネルや防空壕跡
現状	ホラヒメグモの特徴である一定の暗環境内に適応し視力を欠くヒメグモ類となる。したがって特定の洞窟などで、特定の環境に順応した「種」を形成する。
備考	

カリユウホラヒメグモ

学名	Nesticus karyuensis Yaginuma	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



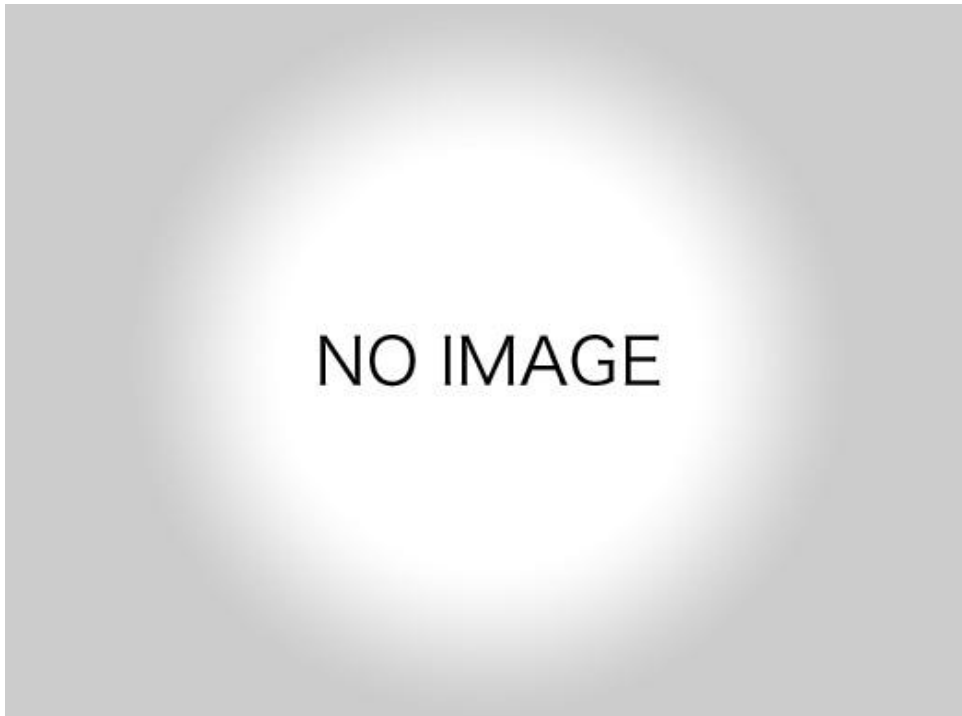
[選定理由]

佐伯市狩生洞, 津久見市願寺石灰岩裂内部にのみ生息。狩生洞は崩落がはげしく, 願寺の岩裂は掘削(石灰岩掘削)により生息環境が劣悪化し, 更に掘削により生息場所が狭小化している。

県内分布	佐伯市狩生洞, 津久見市願寺の石灰岩裂
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	洞内, 岩裂内の側壁のくぼみなどに造網。
現 状	個体数減少中, 特に願寺では, 個体数は壊滅する見通しがある。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

フウレンホラヒメグモ

学名	Nesticus furenensis Yaginuma	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



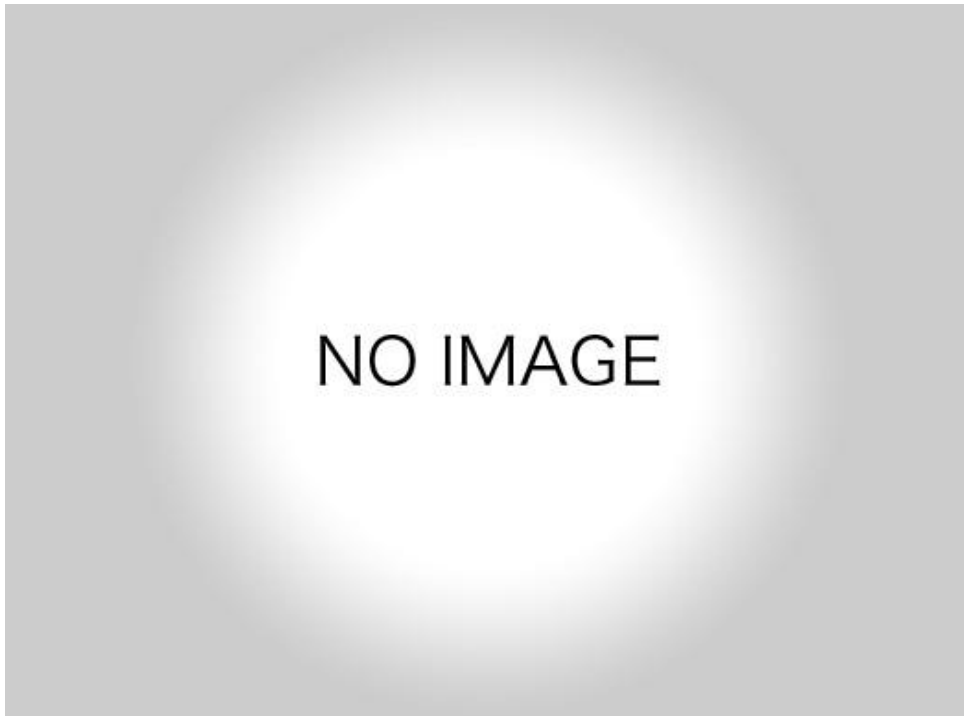
[選定理由]

野津町風蓮洞のみに生息。洞内人工照明により生息環境が狭小化し、個体数が減少している。

県内分布	野津町風蓮洞
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	洞窟内暗部の崖くぼみなどに造網。
現 状	風蓮洞でも未開発の部分でないと、確認しがたい。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

ブンゴホラヒメグモ

学名	Nesticus bungonus Yaginuma	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



[選定理由]

緒方町の九十九折洞のみに生息。観光地化がすすみ、人為干渉頻度が高くなりつつあり、生息環境が狭小化している。

県内分布	緒方町九十九洞
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	侵食洞暗部の石の下や崖のくぼみに造網。
現 状	個体数減少中。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

ソボホラヒメグモ

学名	Nesticus iriei Yaginuma	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



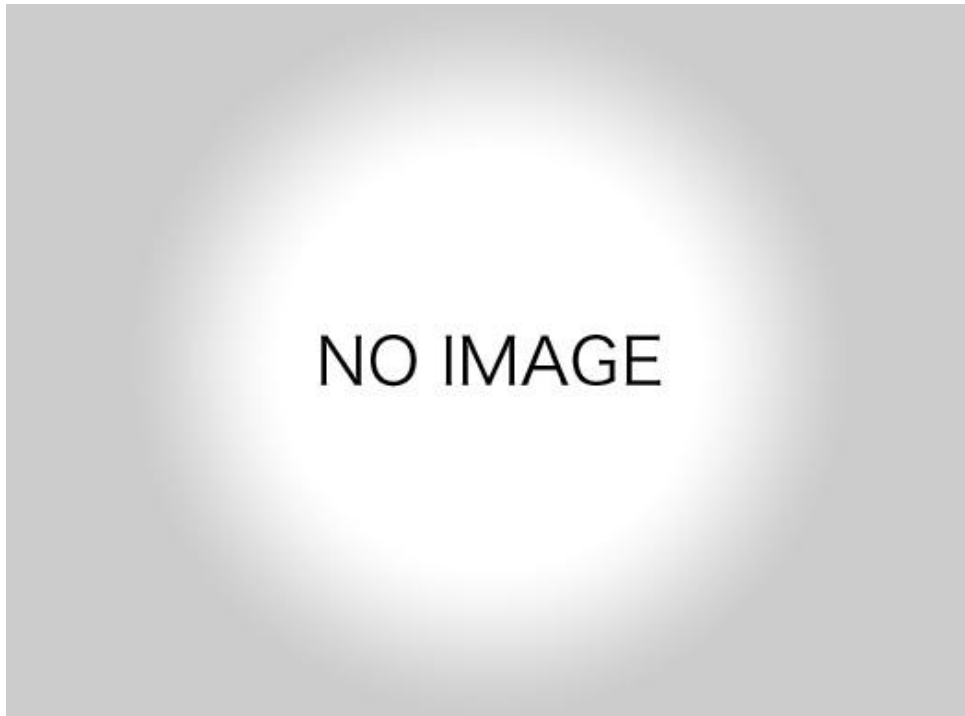
[選定理由]

竹田市穴森の穴にのみ生息する。観光開発により洞内の人為干渉が増加したため、生息環境が狭小化傾向にある。

県内分布	竹田市神原穴森の穴
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	洞穴暗部の石の下, 側壁のくぼみなどに造網。
現 状	個体数は減少しつつある。
備 考	特定の洞窟に特定の種個体群を形成する。

タカチホホラヒメグモ

学名	Nestics takachiho	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



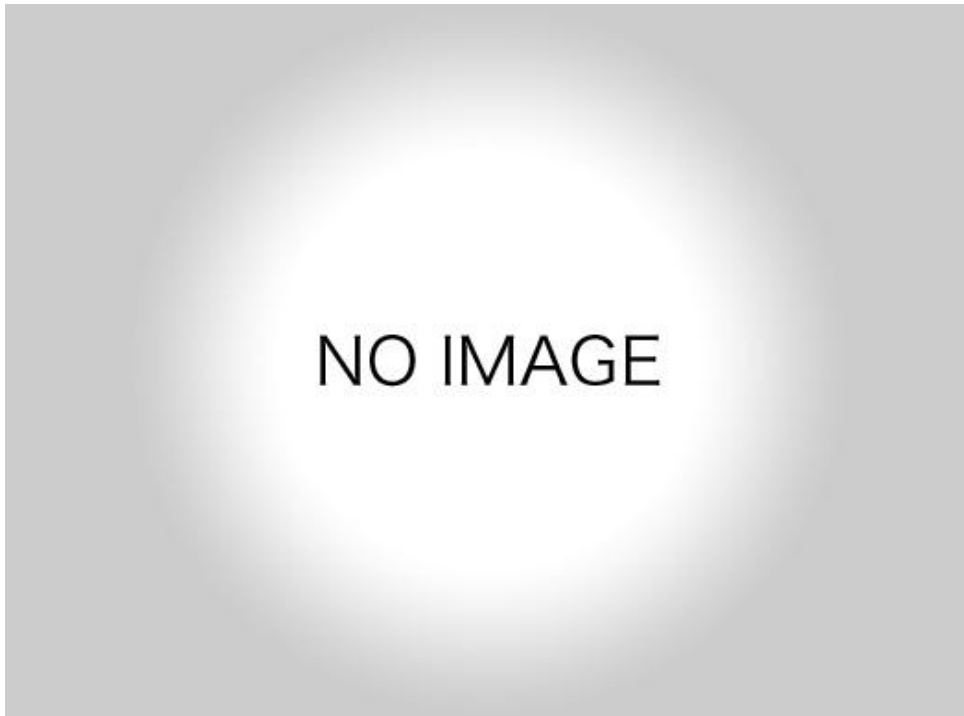
[選定理由]

分布が新たに記載された 木浦地域だけの記載

県内分布	宮崎熊本県境などの洞窟に生息し、大分県下を含めて極めて少数の個体数が報告されている
分布域	宇目町木裏鉦山跡・竹田市神原の洞窟など
世界的分布	
生息環境	木浦鉦山跡の洞窟や竹田市神原の洞窟など暗環境で少しかだけ間接照明が認められる環境
現 状	ホラヒメグモの特徴で、それぞれの暗環境にだけ適応した、視力を欠くヒメグモ類。特定の環境だけでしか生息しない種である。
備 考	

ホラヒメグモの1種A

学名	Nesticus sp (A)	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



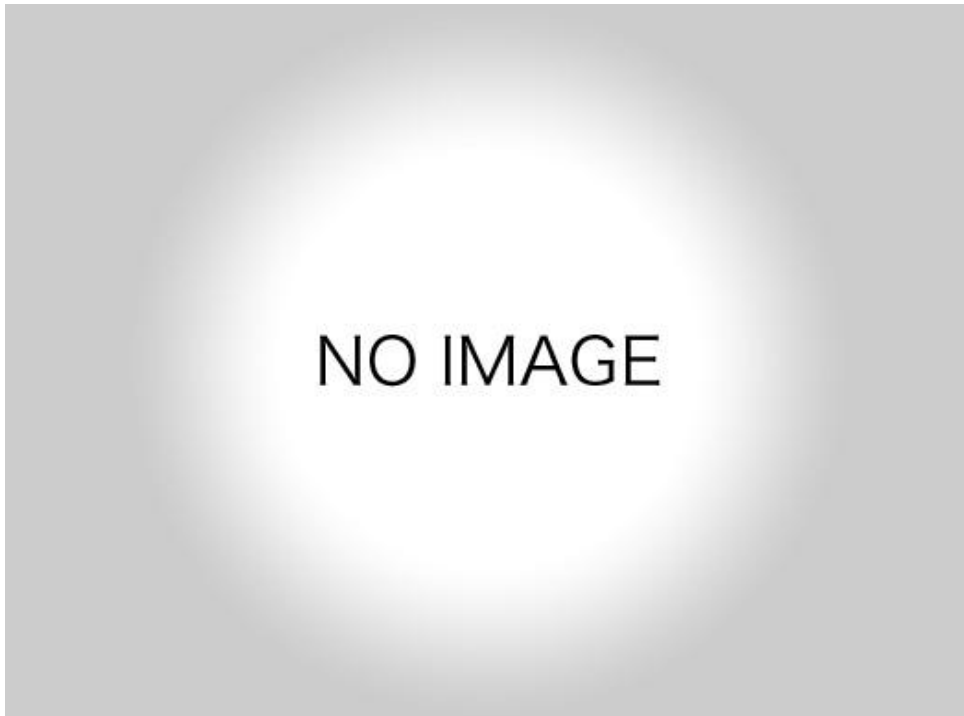
[選定理由]

本匠村小半洞にのみ生息。観光開発で洞内が明環境に変化し、生息条件が劣化している。

県内分布	本匠村小半洞
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	小半洞の湿壁に造網。
現 状	生息条件の劣化に伴い個体群サイズも劣化している。
備 考	

ホラヒメグモの1種B

学名	Nesticus sp (B)	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opisthothelae	
科名	ホラヒメグモ科	
科名学名	Nesticidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



[選定理由]

大分市八幡地区の旧海軍魚雷格納洞穴に生息。道路改良工事などで洞穴が埋め立て封鎖され個体群サイズが劣化中。

県内分布	大分市八幡地区の旧海軍防空壕跡
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	旧海軍防空壕魚雷格納庫の奥部に生息。
現 状	洞内の岩盤崩落などのため個体群サイズが劣化中。
備 考	

ツクネグモ

学名	Phoroncidia pilula	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヒメグモ科	
科名学名	Theridiidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



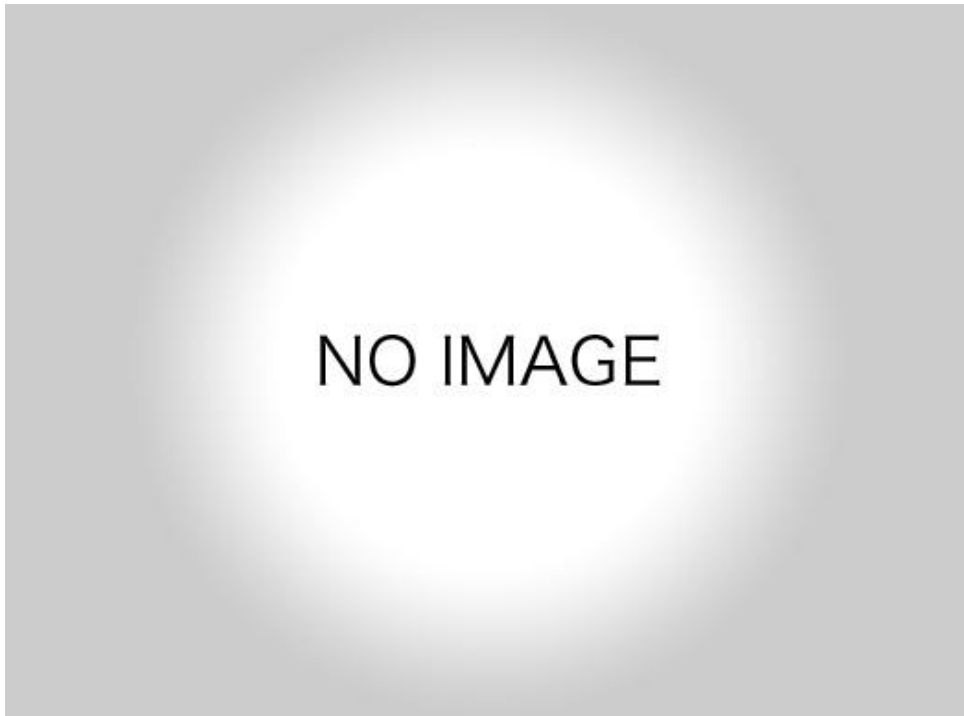
[選定理由]

県内では標高200～700m地帯の森林の林縁などで人為干渉が進み、生息する樹皮、草地などでの安定した生息が確保できなくなった空間が拡大されている。

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	山地林縁, 林内のギャップ間縁など明環境にある樹林の樹枝や草木を利用して造網(1本の粘り糸をはるだけ)。
現状	県内全域で, 1988年ごろから特に個体数が減少しはじめ, 1999年10月現在までこの傾向は継続している。
備考	

ツノヒシガタグモ

学名	Episinus bicornutus Yoshida	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヒメグモ科	
科名学名	Theridiidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



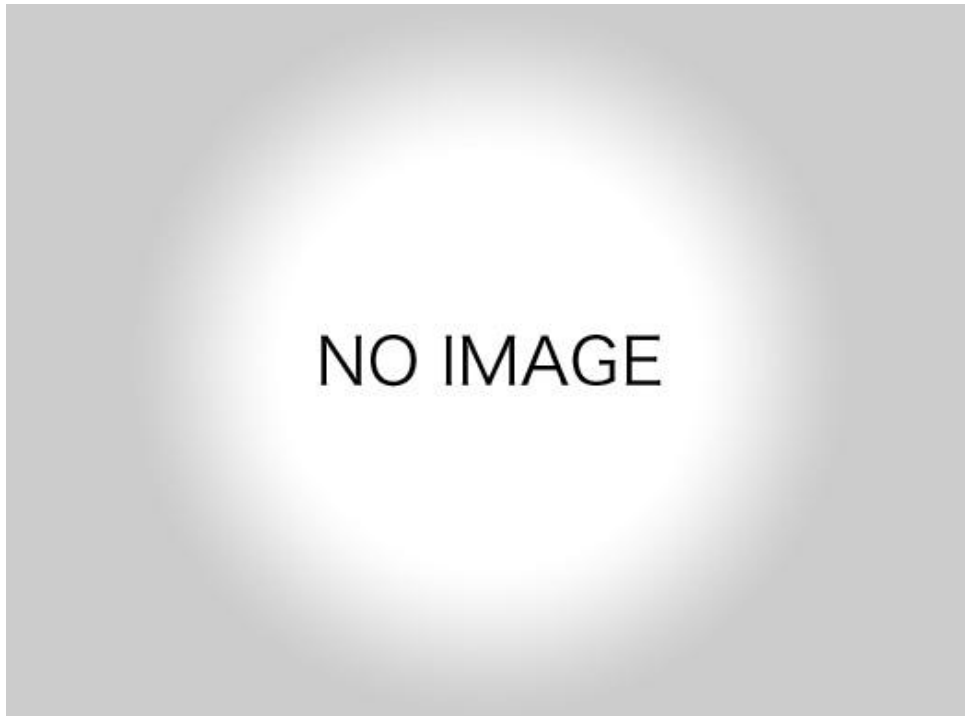
【選定理由】

1981年7月22日糸戸岳, 1981年6月8日, 大分市において確認されて以来, 急激に個体数が減少している。

県内分布	津久見市保戸岳, 津久見市四浦, 津久見市刀自ヶ浦, 大分市中判田, 大分市竹中
分布域	九州
世界的分布	
生息環境	照葉樹林帯マント群落の低部に造網する。リター内にも小規模個体群が認められることがある。
現 状	津久見市保戸岳, 大分市中判田では極少個体となっている。
備 考	1983年, 県産個体をタイプ標本として吉田哉により新種記載。

ハラダカツクネグモ

学名	P. altiventris	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヒメグモ科	
科名学名	Theridiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

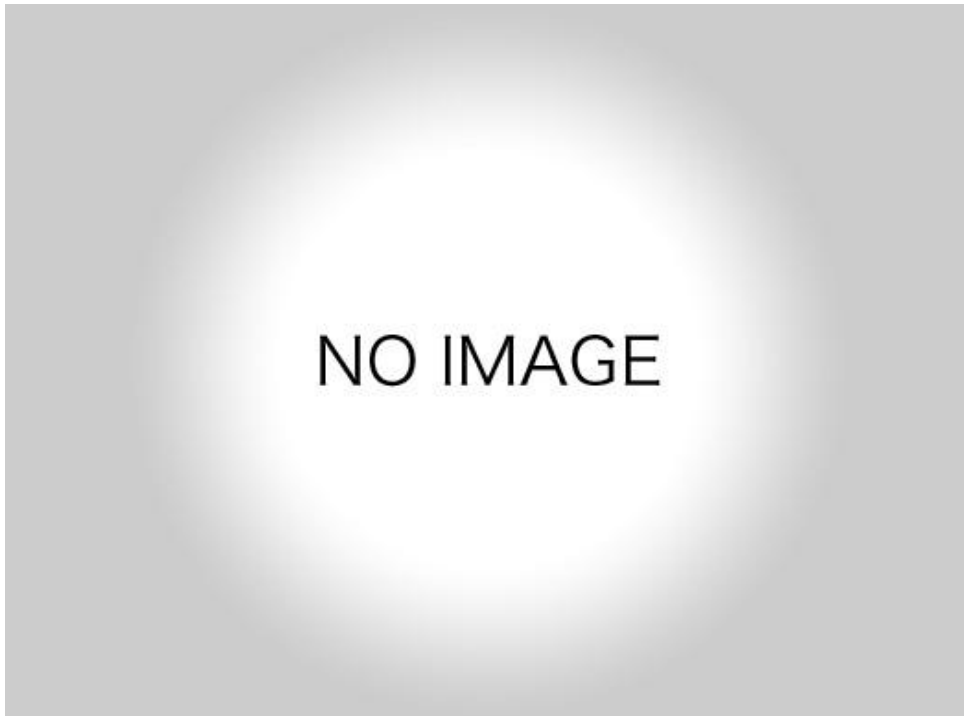


[選定理由]

県内分布	山国町
分布域	本州, 九州
世界的分布	
生息環境	陰樹林内の岩裂や, 地表面のシダ類などの草間に生息。
現 状	山国町野峠などに極めて希。
備 考	1981年5月31日, 山国町天の岩戸岩窟入口で確認。1985年, 吉田哉により新種記載。

オオツリガネヒメグモ

学名	Achaearanea tubulata	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヒメグモ科	
科名学名	Theridiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	湯布院町小田の池, 由布岳東南麓, 石垣原, 戸次河原, 三軒茶屋
分布域	本州, 九州
世界的分布	
生息環境	崖地のくぼみなどに立体網, その中に砂粒などで釣鐘状住居をつくってひそむ。
現 状	現地では, 県内分布種として確認地点が極めて少ない。
備 考	1981年6月14日湯布院町小田の池で確認。1983年吉田哉によりAcaeararea nipponica Yoshida とされたが, 1980年に A.tubulataLevi であることが判明した。

タニマノドヨウグモ

学名	Metleucauge kompirensis		
目名	クモ亜目		
目名学名	Opiisthothelae		
科名	アシナガグモ科		
科名学名	Tetragnathidae		
カテゴリー	大分県：準 (NT)	環境省：掲載なし	



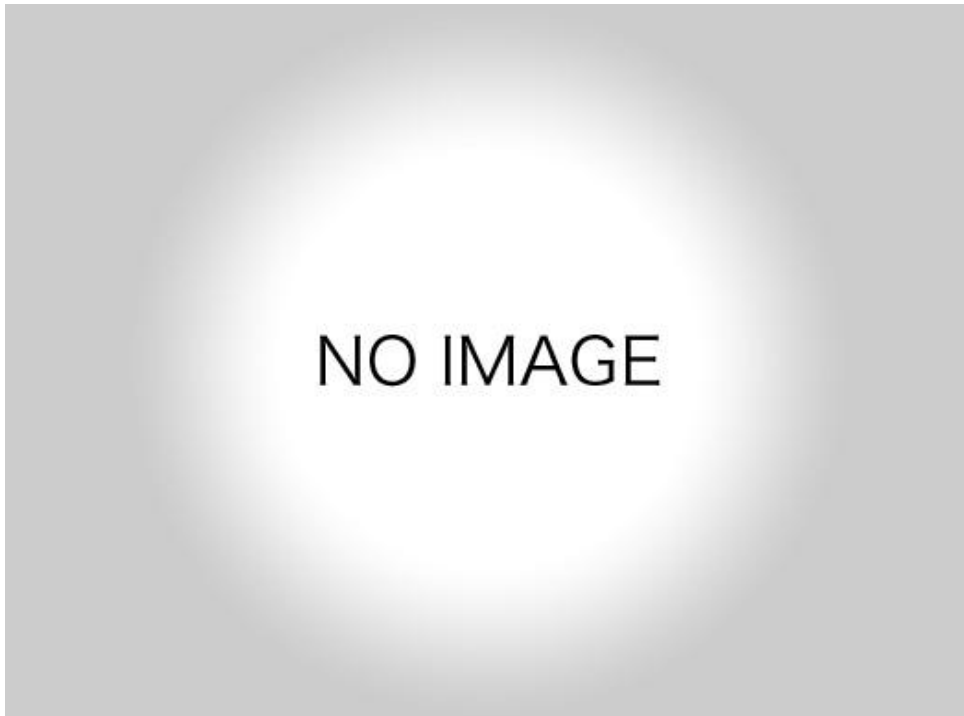
[選定理由]

1985年頃から次第に個体数が減少し、各水系ともに6～8月に2～3個体しか見られない状態になっている。河川工事により、両岸河畔林の伐開と河川水面上空間部の人為的開放が原因と思われる。

県内分布	山国川水系, 院内川水系, 深見川水系, 阿蘇野川水系, 由布川水系, 平井川水系, 奥嶽川水系, 番匠川水系などの河川上流部溪谷
分布域	国内全域
世界的分布	
生息環境	谷川の両岸の植生樹林を利用して、谷川の水面上1～4m程度の空間に大きな水平円網を張る。
現 状	生息水系では極めて少ない個体数となっている。
備 考	

ヒカリアシナガグモ

学名	Tetragnatha nitens	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	アシナガグモ科	
科名学名	Tetragnathidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

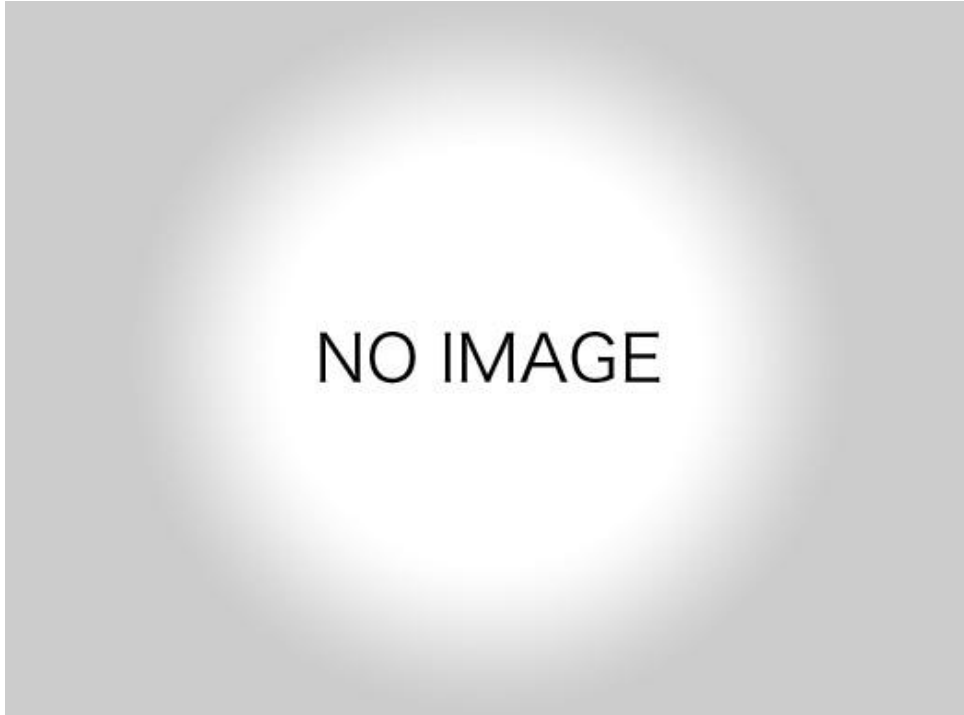


[選定理由]

県内分布	佐賀関町串ヶ鼻, 一尺屋, 蒲江町波当津
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	タブノキ林, ヤブツバキ林の樹枝間に丸網(タテ型)を造網。
現 状	佐賀関町で1978年, 1個体が確認された。南方インドネシアなどに依拠したクモで台風による飛来種であるが, その後, 数年に一度, 間欠的に確認することができるだけの種である。
備 考	1998年9月に蒲江町波当津で2個体確認。

キジロオヒキグモ

学名	Arachrura logio	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	コガネグモ科	
科名学名	Araneidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	大分市柞原八幡宮コジイ林, 臼杵市九六位山コジイ林
分布域	本州南部, 四国, 九州, 南西諸島
世界的分布	
生息環境	コジイ林内, 萌芽部先端に限って遭遇する。
現 状	コジイ林内の暗環境で, コジイの萌芽部に生息するが, 県下では極めて希な個体となっている。
備 考	

コガネグモ

学名	Argiope amoena	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	コガネグモ科	
科名学名	Araneidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



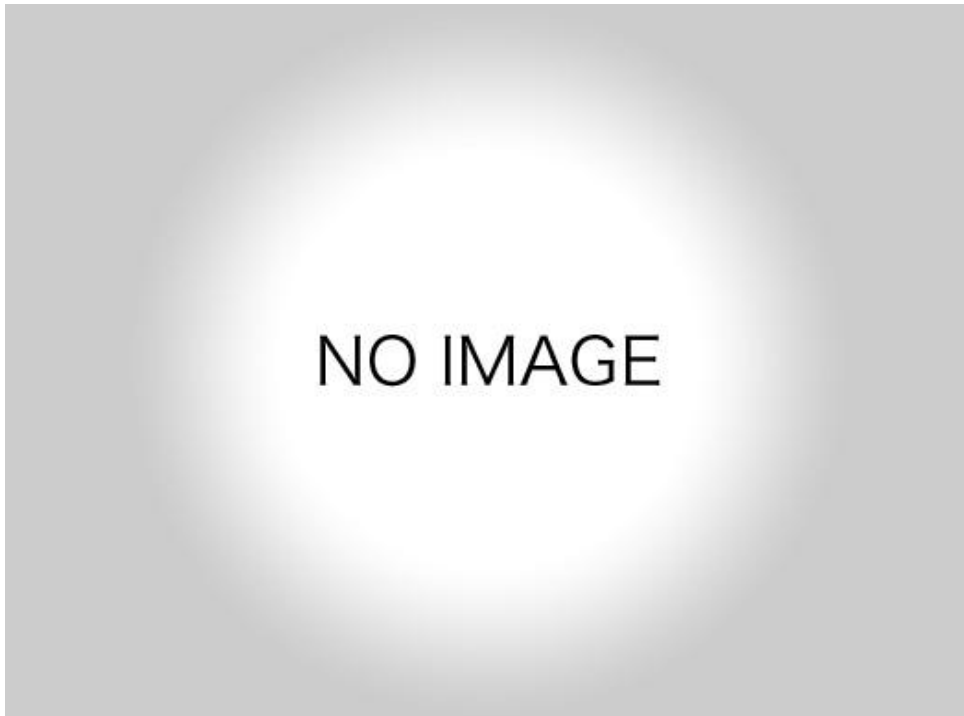
【選定理由】

全県下で1980年初頭ごろから急減。1985年ごろには県下の目撃率はゼロに近くなったが、1992年ごろから徐々に回復し、目撃率4%程度に回復したものの、宅地造成、観光開発のための施設建造などによる環境条件変化により、生息域が再び狭小化している。

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州中部以南、四国、九州、南西諸島
世界的分布	
生息環境	トキワススキ、メダケなどの草間に造網、民家の軒先にも造網。
現 状	都市化された郊外部から都市中心部では生息例がない。
備 考	1950年ごろまでは、コガネグモを用いたクモ合戦は、日豊海岸沿岸地域で普通に行われていた。

チュウガタコガネグモ

学名	A. boesenberg		
目名	クモ亜目		
目名学名	Opiisthothelae		
科名	コガネグモ科		
科名学名	Araneidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



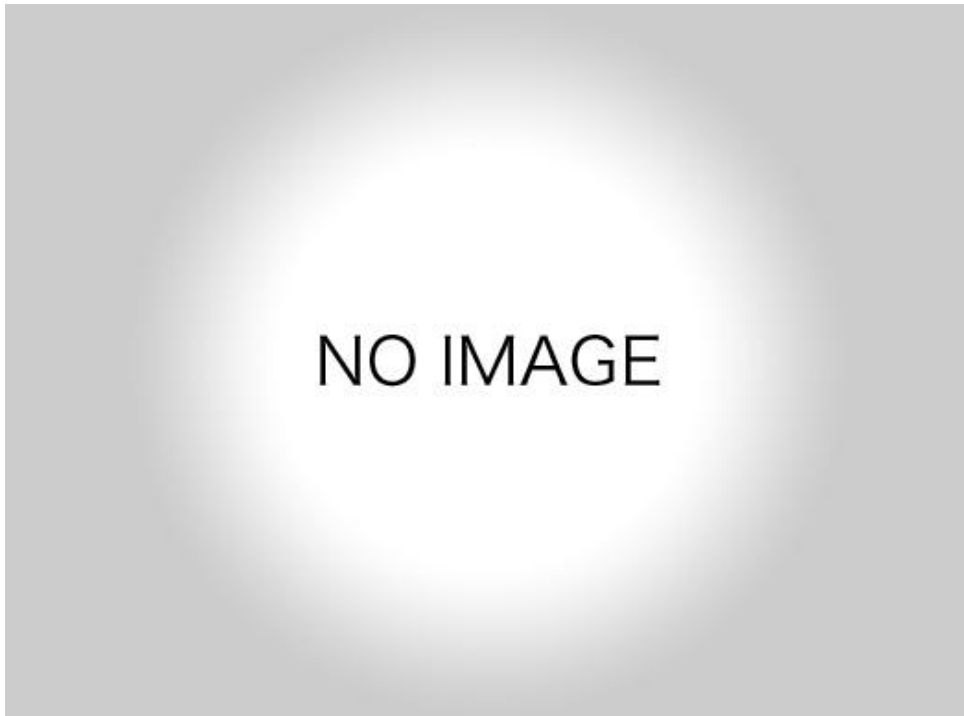
[選定理由]

水田周辺，林縁部で1980年ごろから急速な減少が見られる。水田の畔などに多かったが，コガネグモと共に減少中。

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州中部以南，四国，九州，南西諸島
世界的分布	
生息環境	草原，林縁部袖群落，農耕地周辺の草地などに造網。
現状	1985年ごろから，水田周辺部でもまれになり，大分市西北西山麓部に限って少数個体の生息が例年認められる程度になった。
備考	

イエオニグモ

学名	Neoscona nautica		
目名	クモ亜目		
目名学名	Opiisthothelae		
科名	コガネグモ科		
科名学名	Araneidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

住宅団地開発前線の拡大と共に、民家の軒先から個体数ははげしく減った。特に都市周辺部の農家ではすでに生息が認められない。

県内分布	ほぼ全県域
分布域	本州, 四国, 九州, 南西諸島
世界的分布	
生息環境	旧家の軒下, 天井, 納屋, 畜舎などに生息。軒先に丸網を造網。
現 状	1975年ごろから次第に減少。
備 考	九州では, 子供達の虫取りにこのクモの円網を利用していた習慣があり, 人の日常生活と密着していた。

アカオニグモ

学名	Araneus pinguis	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	コガネグモ科	
科名学名	Araneidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



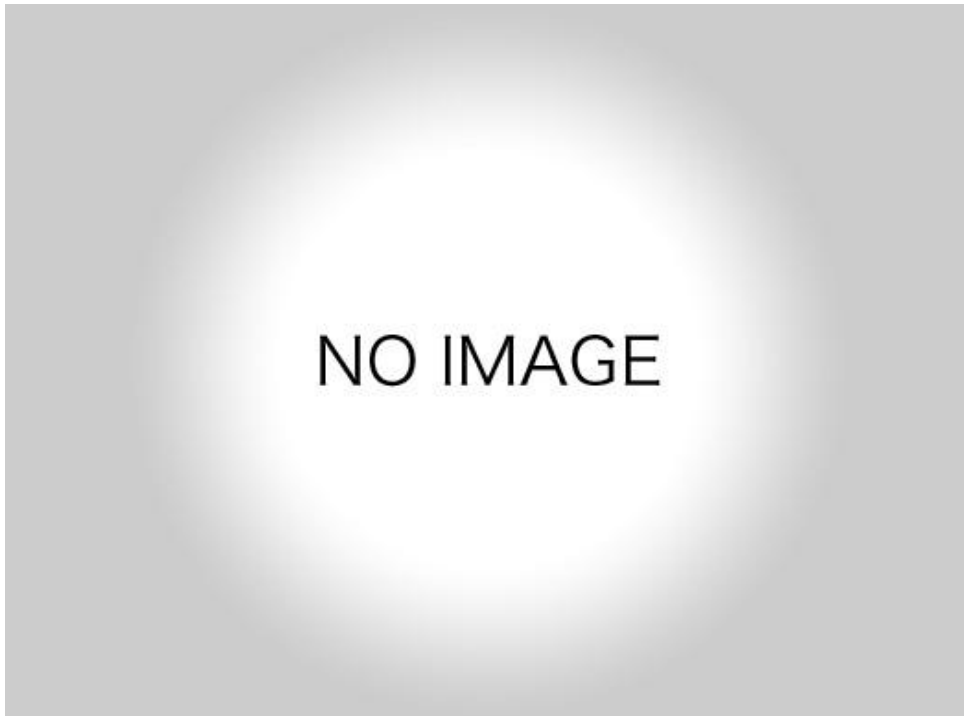
[選定理由]

湯布院町小田の池など中層高原などの草原台地に希に生息。しかし産卵が認められない飛来種と考えるが定着性が薄弱。

県内分布	湯布院町小田の池, 湯布院町塚原高原, 別府市十文字原, 久住町清水山牧場
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	草原のススキ, ハギなどの草葉間に丸網を造網。
現 状	確認個体数は極めて少ない。
備 考	

ゲホウグモ

学名	Polthys illepidus	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	コガネグモ科	
科名学名	Araneidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

山地森林の伐採などにより生息環境は悪化。(夜間活動性)照葉樹林帯に多かったが、1985年ごろから急減した。

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州, 四国, 九州, 南西諸島
世界的分布	
生息環境	山地, 森林の樹皮間に造網。萌芽や樹幹のコブ状に見せる。
現 状	1980年代から減少中。
備 考	

カマスグモ

学名	Theleticopis severa		
目名	クモ亜目		
目名学名	Opiisthothelae		
科名	アシダカグモ科		
科名学名	Heteropodidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



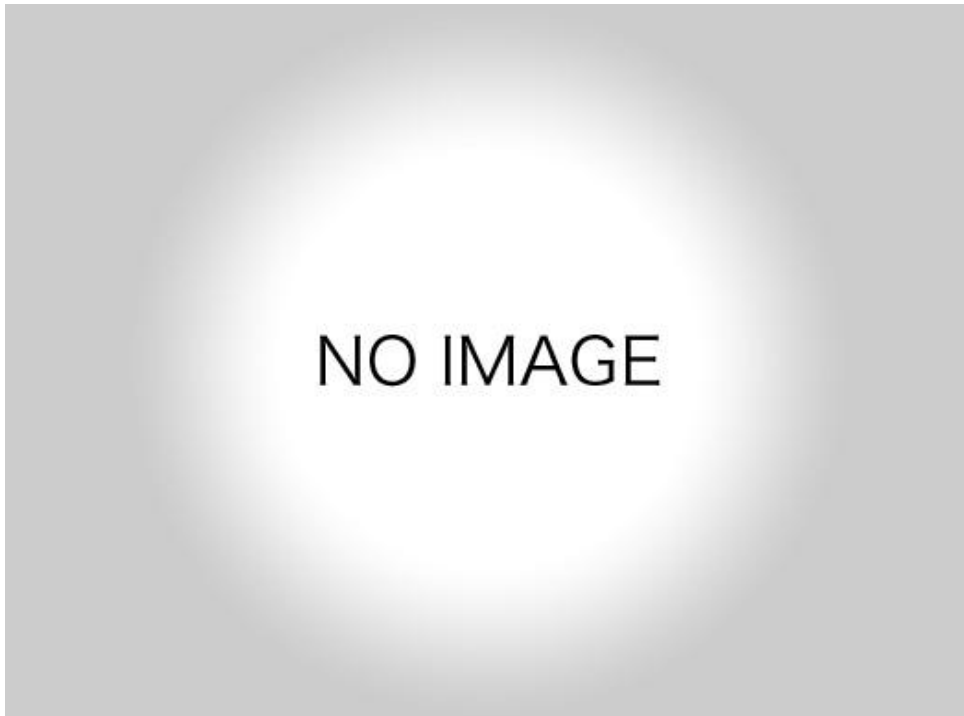
[選定理由]

アシダカグモ科の緑灰褐色の腹部背面に、黄色の矢筈斑をもつクモで大型、美しい個体であるが、1980頃から、県下での目撃はきわめて減少した。

県内分布	ほぼ全域
分布域	本州近畿以南, 四国, 九州, 南西諸島
世界的分布	
生息環境	山地の樹枝・葉上, 草地のイネ科草本葉上を徘徊。
現 状	極端に個体数が減った1985年ごろ以来, 個体数の復元が認められない。
備 考	

ヒトエグモの1種

学名	Plator sp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ヒトエグモ科	
科名学名	Platoridae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

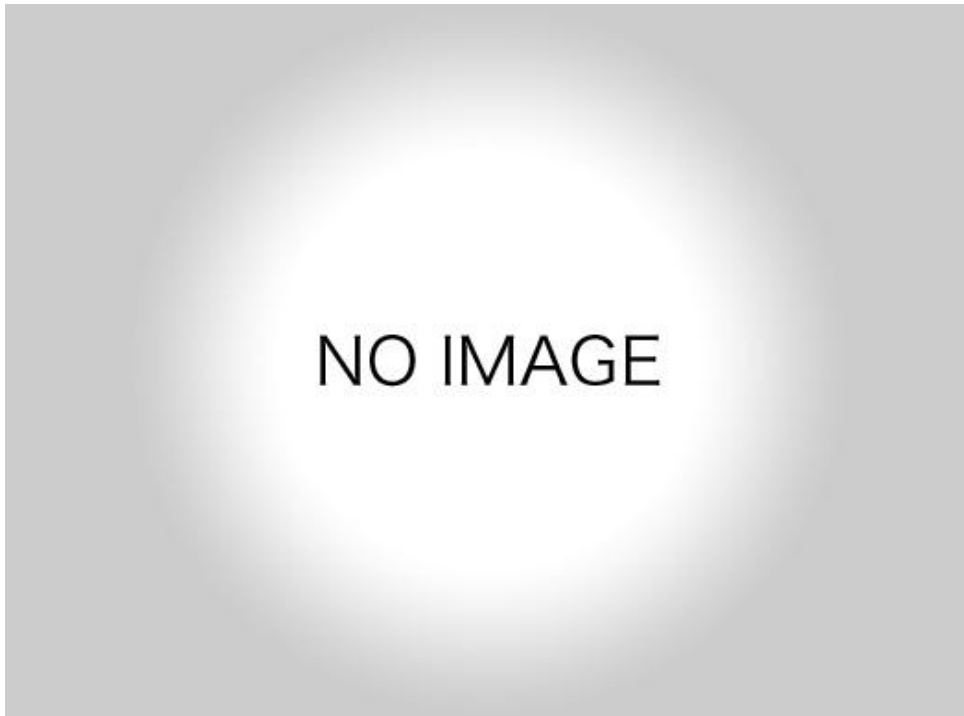


[選定理由]

県内分布	国東半島, 玖珠ドリーネ地帯, 津江山系, 久住火山群, 祖母傾山系, 宗太郎峠
分布域	九州(大分)
世界的分布	
生息環境	屋内性屋根伏せ板の下とか, 森林の岩の下, 落葉堆積部周辺, 冬木にはイチイガシの樹皮下でも希に目撃。
現 状	個体数急減, 大分市松原緑地などでわずかに確認できるのみ。1999年8月以来目撃例がない。
備 考	

フノジグモ

学名	Synaema globosum japonicum	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	カニグモ科	
科名学名	Thomisidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし

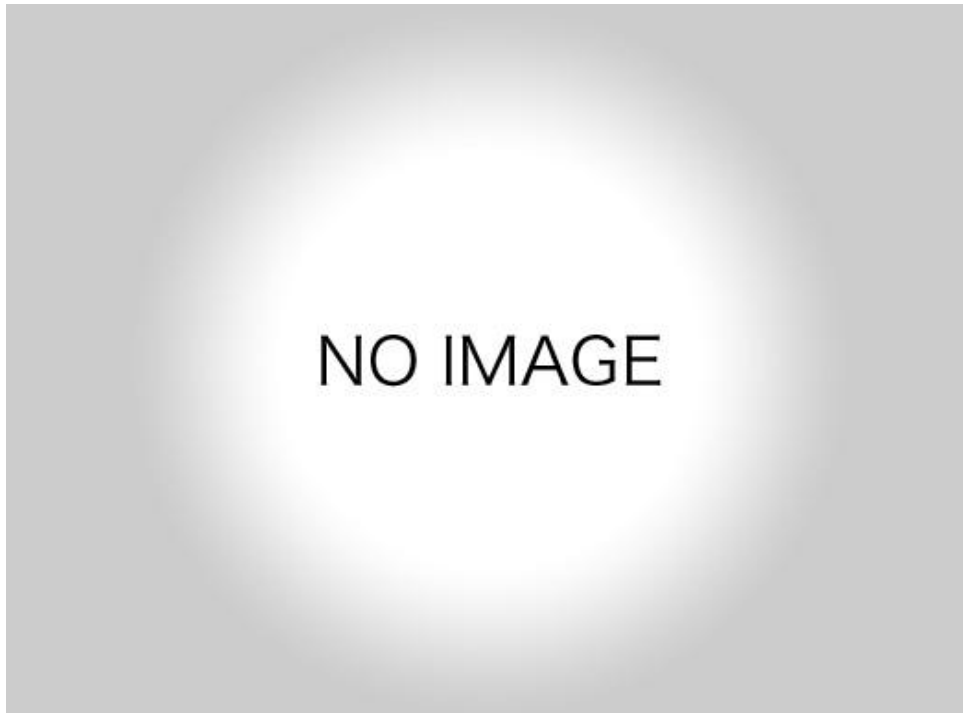


[選定理由]

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州中部以南, 四国, 九州
世界的分布	
生息環境	林内, 林縁を問わず, 草地などをも利用している。
現状	ほぼ全県域に生息していたが, 1985年ごろから減少中で, 1995年ごろからは個体数において「希少」と判断される。個体数減少が著しく, 特に都市部周辺では目撃例が急減した。
備考	

クロボシカニグモの1種

学名	Xysticus sp.		
目名	クモ亜目		
目名学名	Opiisthothelae		
科名	カニグモ科		
科名学名	Thomisidae		
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし	

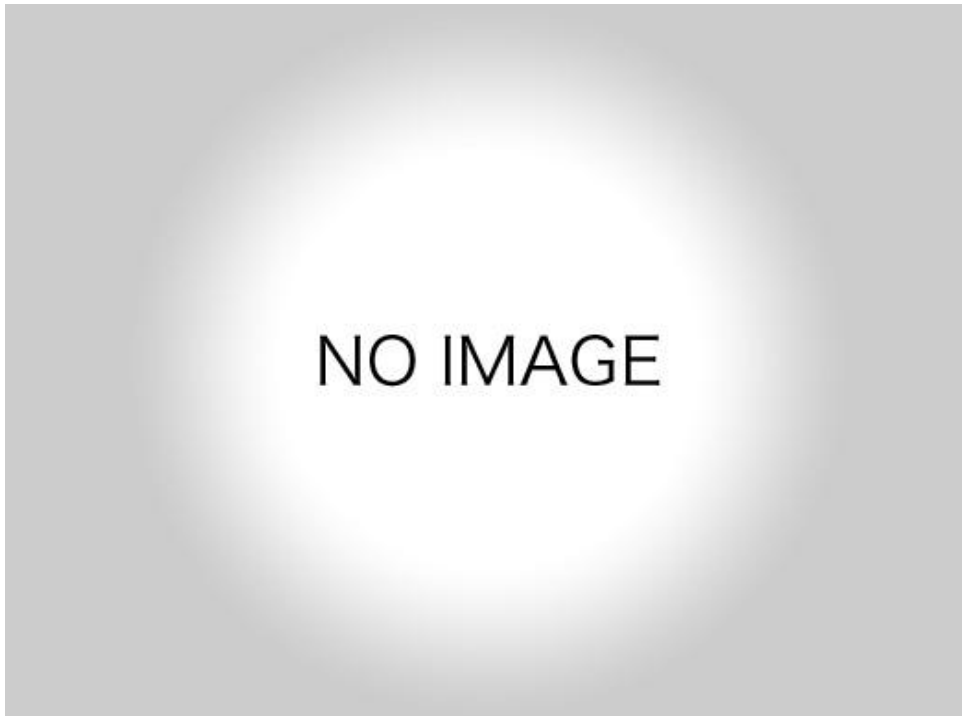


[選定理由]

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	本州中部, 九州
世界的分布	
生息環境	山地低木類の葉上などを徘徊。
現 状	1982年頃から, 林内低木などでの発見が困難になり, 1997年ごろから個体数が急激に減少中である。米水津村沖の黒島では, オニヤブソテツ, ヤマアイなどの草本層で安定した個体群が維持されている。
備 考	

オオクマアメロハエトリ

学名	Synagebides annae		
目名	クモ亜目		
目名学名	Opiisthothelae		
科名	ハエトリグモ科		
科名学名	Salticidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし	



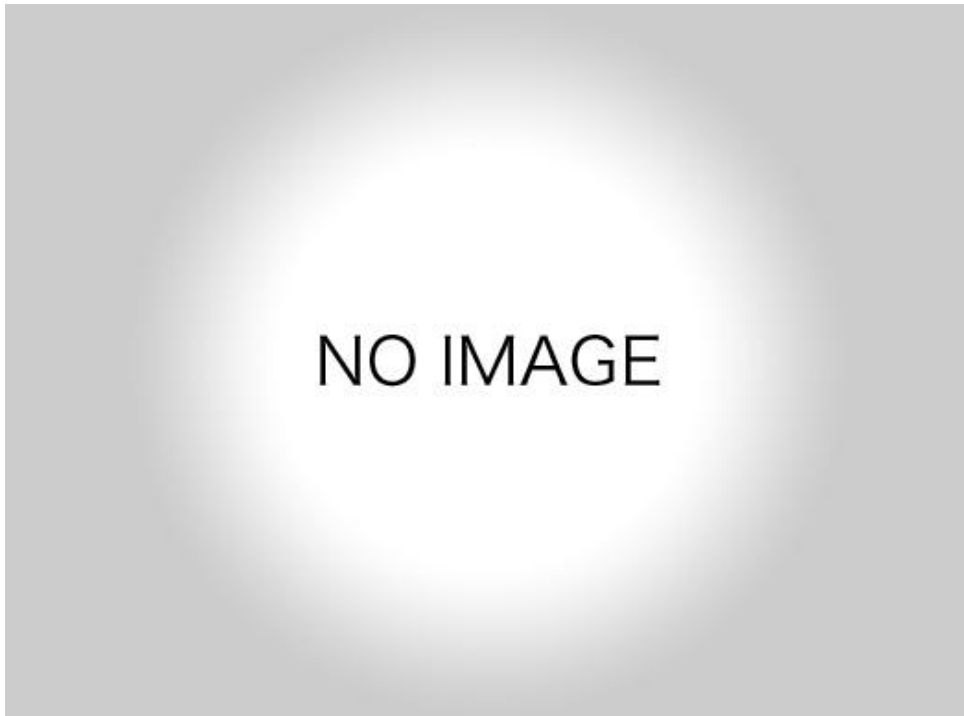
[選定理由]

もともと希少であったが、1992年ごろから個体数が減少中。

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	四国, 九州
世界的分布	
生息環境	林床に生息。
現 状	個体数減少が著しく1975年ごろに比べて半数以下の出現率になった。
備 考	1980年代, 大分県新産都第2期計画推進のための環境調査で発見され, 国内初記録となった種である。

アリグモの1種

学名	Myrmarachne sp.	
目名	クモ亜目	
目名学名	Opiisthothelae	
科名	ハエトリグモ科	
科名学名	Salticidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし

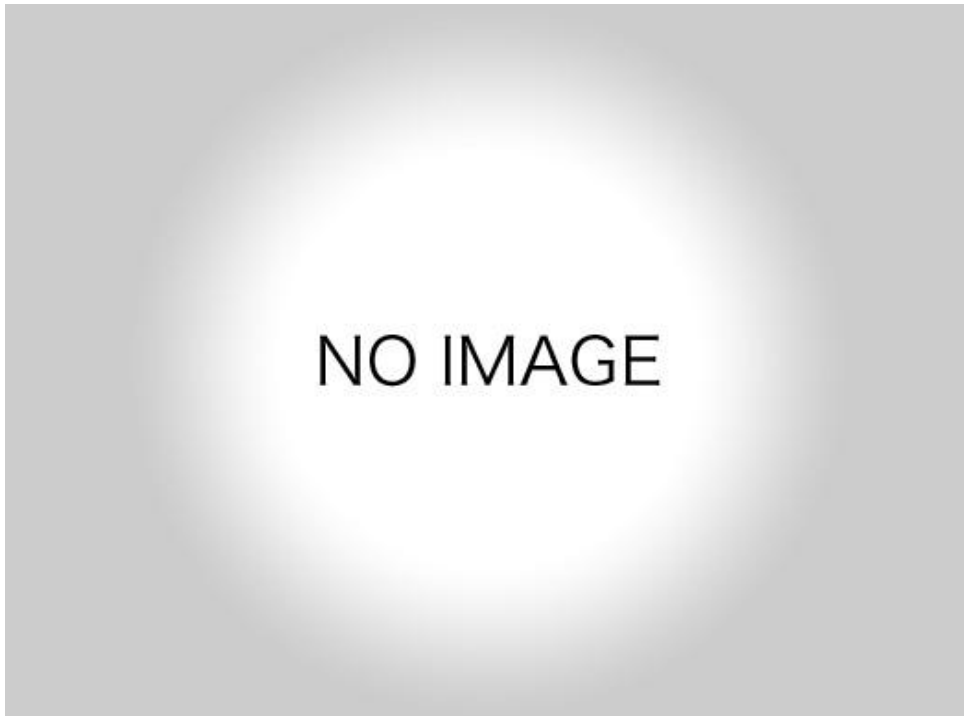


[選定理由]

県内分布	ほぼ県内全域
分布域	九州
世界的分布	
生息環境	林内の林床。
現 状	個体数減少中である。
備 考	

タマゴダニ類

学名	Astegistidae gen spp.	
目名	ササラダニ亜目	
目名学名	Oribatida	
科名	ダルマタマゴダニ科	
科名学名	Astegistidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



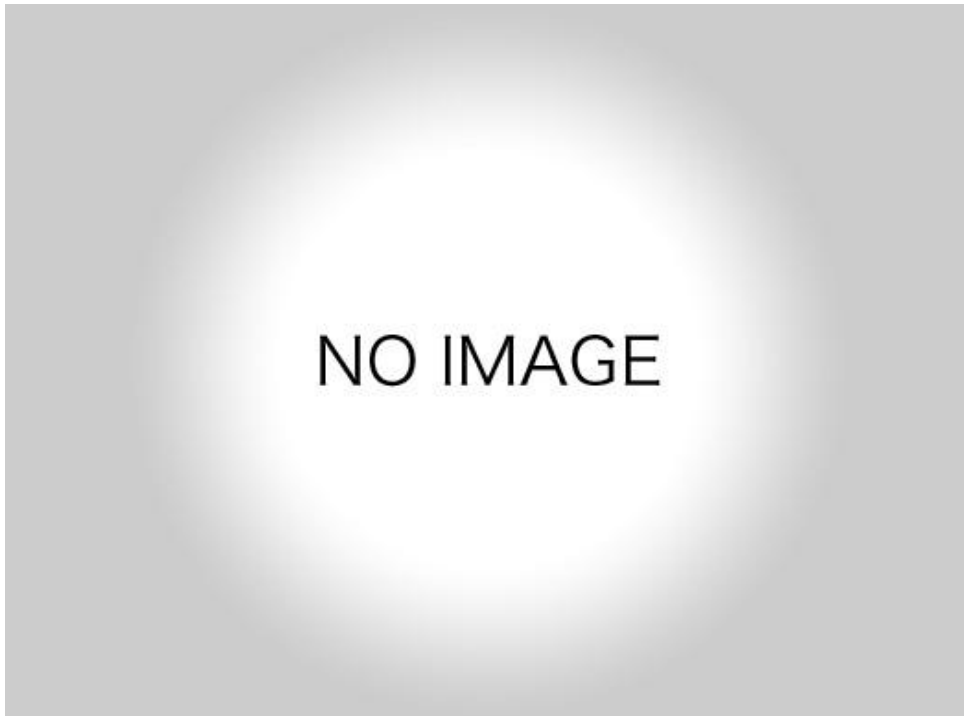
[選定理由]

神楽山でカグラゴマグモ類と同一環境共生。

県内分布	佐伯市神楽山の乾燥落葉層
分布域	佐伯市青山
世界的分布	
生息環境	神楽山の照葉樹林乾燥落葉層でだけ生息していることが確認された。
現 状	道路開設により、乾燥化進行、振動、排気ガスなどによる環境条件変化が懸念される。
備 考	新種記載候補

フリソデダニ類

学名	Galumnidae gen spp.		
目名	ササラダニ亜目		
目名学名	Oribatida		
科名	フリソデダニ科		
科名学名	Galmnidae		
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし	



[選定理由]

観音滝のヒメシヤラ林内落葉層が観光客により踏み固められつつある。

県内分布	宇目町観音滝の落葉層
分布域	宇目町藤河内
世界的分布	
生息環境	ヒメシヤラ林内部の落葉層
現 状	観光開発により立ち寄る観光客が増加し、ヒメシヤラ林内部の踏み荒らし乾燥化が懸念される。
備 考	

ウズタカダニ類

学名	Liodidae gen spp.	
目名	ササラダニ亜目	
目名学名	Oribatida	
科名	ウズタカダニ科	
科名学名	Liodidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



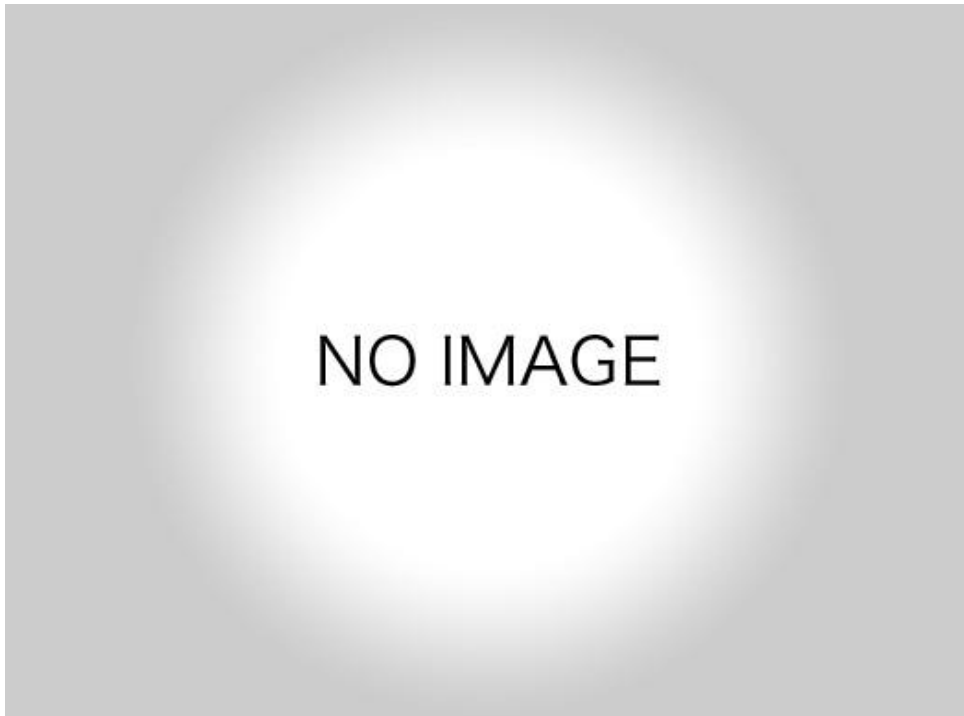
[選定理由]

八幡宮若宮イチイガシ林内の落葉層が観光客の踏み固めにより乾燥化。

県内分布	宇佐市宇佐八幡宮若宮ノイチイガシ林
分布域	宇佐市宇佐八幡宮
世界的分布	
生息環境	イチイガシ林内の落葉層
現 状	観光客の参拝が若宮まで拡大されイチイガシ林内部の踏み荒しが始まったため、荒廃する恐れがある。
備 考	

ツブダニ類

学名	Oppiidae gen spp	
目名	ササラダニ亜目	
目名学名	Oribatida	
科名	ツブダニ科	
科名学名	Oppiidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



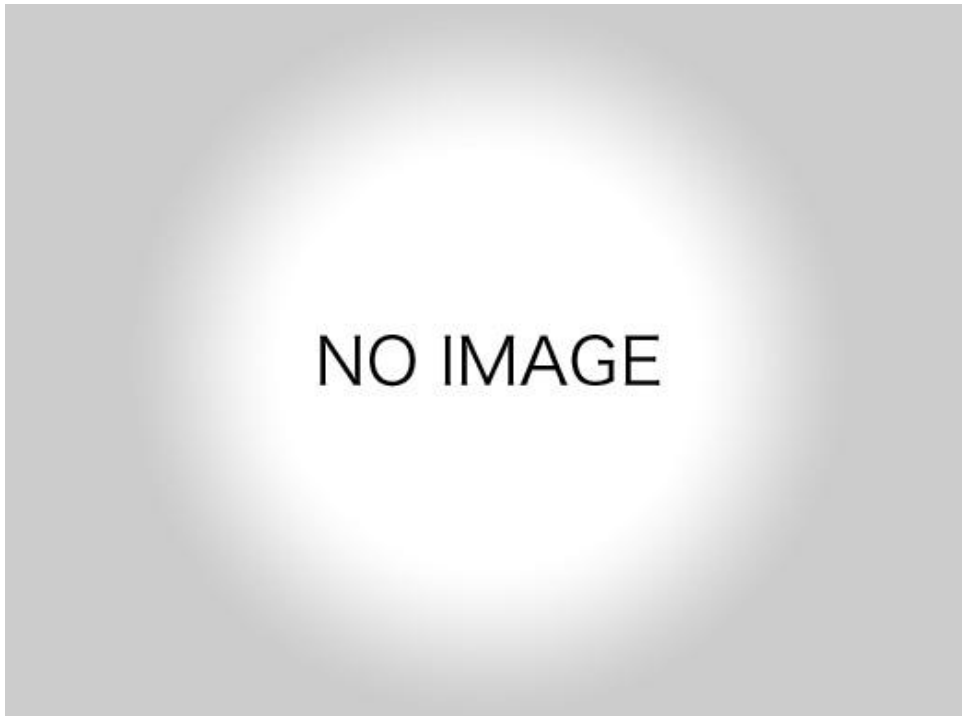
[選定理由]

イチイガシ個体周辺の落葉層が観光客の踏み固めにより乾燥化。

県内分布	清川村左右知のイチイガシ林落葉層
分布域	清川村左右知
世界的分布	
生息環境	イチイガシとヤブツバキの落葉層
現 状	林床の乾燥化が進み土壌動物生息環境として危険環境になり、個体群保全が危ぶまれる。
備 考	一部新種記載候補津江

クワガタダニ類

学名	Tectocepheidae gen spp.	
目名	ササラダニ亜目	
目名学名	Oribatida	
科名	クワガタダニ科	
科名学名	Tectocepheidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



[選定理由]

生息地の観光開発により人為干渉が進行。

県内分布	玖珠町鶴ヶ原の池アカマツ林
分布域	玖珠町古後 鶴ヶ原の池
世界的分布	
生息環境	アカマツ林の林縁ネザサ・ススキ草原
現 状	観光開発による道路整備が原因でこれまでの落葉層が人為管理の対象になり、草刈頻度が高くなったため個体群の保全が出来ない。
備 考	